

独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究 (C)

「子どもの非行・虐待防止のための地域社会ネットワークの実証的研究」報告

## 株式会社ヒューマンハーバー における事業の現状と展望

副島 勲  
山 二 川 敦  
宮 実

本報告は、独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究 (C) 「子どもの非行・虐待防止のための地域社会ネットワークの実証的研究」(課題番号:24530074)の一環として、2014(平成26)年11月22日(土)に早稲田大学早稲田キャンパス8号館4階411号教室にて開催された研究会(第4回更生保護関係部会)の記録である。

- 1 進行説明・導入
- 2 副島 勲「ヒューマンハーバーの概要、および設立の経緯」
- 3 山川 敦「ヒューマンハーバーの事業運営および非行少年等に対する就労支援の現状と課題」
- 4 二宮 実「ヒューマンハーバー『そんとく塾』の概要および非行少年等に対する教育支援の現状と課題」
- 5 総括質疑

### 1 進行説明・導入

石川正興所長: 今年の7月頃に、そろそろ授業が終わる頃になるので、研究に力を入れていこうと思い、情報収集をしていたところ、あるホームページでヒューマンハーバーという会社が面白い試みをやっていることを知りました。現在、就労支援は法務省でも特に力を入れている分野です。それは非常に望ましいことなのですが、いかにせん働く場が少ない。そこでどんな試みがあるかを考えるにあたって、ヒューマンハーバーに直接出向いてお話を聞いてみる価値があると思い、招聘研究員である山田さん、矢作さん、それから石川研究室の吉開君、宍倉君とともに訪問しました。お話

を伺ったところ、我々の中で聞いているだけでは勿体ない、いろいろなところで話が広がっていくきっかけになればと思い、早稲田大学での講演をお願いしました。

今回は、ヒューマンハーバー代表取締役である副島様から、「ヒューマンハーバーの概要と設立の経緯」をお話しいただきます。続いて、山川様はヒューマンハーバー軍師とありますが、なぜ軍師なのかについては、ご報告いただいたうえでさらに、ご質問いただければと思います。山川様からは「ヒューマンハーバーの事業運営および非行少年等に対する就労支援の現状と課題」ということでお話をいただきます。最後に二宮様はヒューマンハーバーそんとく塾塾長とありますが、そのいわれについてもご質問がありましたら、後ほどご質問いただければと思います。二宮様からは「ヒューマンハーバー『そんとく塾』の概要および非行少年等に対する教育支援の現状と課題」についてご報告いただきます。1時間びったりお話す方もいるかもしれませんが、20分くらい時間を残して質疑応答をお認めします。また、全体の質疑応答の時間を1時間ほどとっておりますのでご質問いただければと思います。それでは早速、副島様の方からお願いいたします。

## 2 副島 勲「ヒューマンハーバーの概要、および設立の経緯」

皆さんこんにちは。福岡からまいりました株式会社ヒューマンハーバーの代表取締役をしております副島勲と申します。

平成24（2012）年の12月3日に設立いたしました、まだ日の浅い会社でございます。資本金は現在5040万円の資本金の会社になっております。私は保護司を長年させていただきまして同時に、福岡刑務所の篤志面接委員という役も仰せつかっております。ある権威の方に「再犯を防ぐにはどうしたらいいですか」という質問をしました。そうしたらその方が、「それは、法律を無くせばいいんだ、法律が有る限り再犯があるのだ。法律が無くなれば再犯なんてないんだ」と言われました。もったもたと思大変感動しましたが、世界中探しても法律の無い国はありません。必ず法律が有る。より安全な街、より豊かな街のために、法律が有るのです。

ですから法律が無いのは考えられません。たとえ会社経営者であれ実力のある方であれ、誰でも刑務所に入る資格があるのだといえます。それも無試験で入れます。ですから、事業で何か事故があればトップの方は必ず責任を問われます。あるいはそこにちょっと自転車があるからちょっと拝借して持って行って、その辺に置いたとなると、占有離脱物横領罪という犯罪があるわけです。万引きも大きな社会問題になるわけです。だから、誰でも犯罪者になりうる、どうか他人事と考えないでくださいといつも申し上げております。

刑務所を矯正施設（刑事施設）と申します。「矯正」とはどういう意味かと言えば、「曲がったものをまっすぐ直す」という意味です。「懲役」というのは「懲らしめて働かせる」という意味です。刑務所に入って労賃がどのくらいかと言えば、給料が10数段階に分かれているそうですが、1時間6円



14 銭という金額だそうです。だから懲らしめられて働いても、そんなにお金にならないのです。出ていく時にはお金が無いのが実態です。刑務所内で教育したらいいものではないかという声も出ています。でも、現場の刑務官の人たちは違う感覚を持っています。どういう感覚かというと、刑務所内は曲がった者をまっすぐにして懲らしめる場所だからもう二度とこの場所に戻ってくるなということを教えるのが本当の教育だという、現場ではそのような感覚もあるわけです。ところが、中には二度三度四度と刑務所に入る人がいるわけです。こういう人は正直救いようがありません。

刑務所で制裁を受けるということは社会的な制裁を受けることにつながります。刑務所は隔離された環境です。その隔離された環境の中で何年も過ごした人が仮釈放という制度で出ることがあります。仮釈放で出た時に身元引受人が立派な方であればいい。更生する際に役に立ちます。しかし、身元引受人が頼りない場合があります。それから満期釈放というのがあります。どうぞ罪を償ったから出てください、社会に溶け込んでくださいと言われても、隔離された中から自由に羽ばたけるかというところではありません。泊るところも無い、お金も無い、失業保険も無い。だからついつい再犯という問題がまた起きていくわけです。だから私は何とかそのリハビリテーションのために学校を作りたいというそういう強い思いがあります。就労・教育・宿泊、とくに泊る所だけあればいいという説もあります。しかし服役者の約 65 パーセントの人は中卒か高校中退の人なのです。そういう人がまた再犯をするという実例が多いのです。だから教育をして気付きを与えないと変わることはできないのです。いくら言っても聞かせても、そこに教育が欠けています。保護司の立場からすれば、親が悪い、ある地域の環境が悪いという場合もあります。しかしそうではない。人間というのは本能的に成長したい、幸せになりたい、そして、もっと自分を磨きたいということを本能的に持っていると思います。そして、どなたでも「人様のお役に立ちたい」という気持ちを持っています。そういう気付きを与えてやらないといけません。就労・教育・宿泊の三位一体が再犯防止につながると私は思っています。例えば、非行少年がおります。少年は仮退院あるいは満期退院になると親元に帰すことになります。ところが少年院の中にいる彼等から手紙をもらうと、地元に戻ることに恐いといつも書いてあります。

なぜかという、そこには昔から過ごしてきた仲間がいるからです。彼等から誘われると断れないという怖さがあります。ところが、身元引受人が親元で、親元に帰ると昔からの仲間がそこにいる。保護司会は全国組織です。保護司会が身元引受人になって、転地療法ができる仕組みを整えていくべきではないかとも思っています。

私は、後ほどお話しする山川と平成 22 年の 8 月 4 日に出会いがありました。彼は沖縄刑務所に 4 年 7 か月間服役してきました。私が担当保護司です。私のいる福岡市中央区の保護区の地域には 6 名位保護司がいるのだが、その中の私と彼が出会いました。身元引受人だった奥様は東京の方なのですが、たまたま転勤で福岡に来ておられ、そのために私と出会いました。彼は非常に優秀な男で、私は月 2 回面談するたびに宿題を出しました。例えば私が書いてきた文書をレポート A4 で 1 枚にまとめて欲

しいと言うと、彼はきっちりその宿題をやるのです。そこで、彼と出会う中で、再犯防止のためにこういうスクラップ事業をやりたいと言いました。彼は「スクラップ事業ですか」と言って、嫌々の様子でした。軽トラックに乗って仕事をするイメージがあったのか相手にしてくれませんでした。平成23年の2月19日と記憶していますが、山川は満期になったので、沖縄に一度帰ります。そしてそういう事業を調べてみましょうということからスタートし、ヒューマンハーバーという形が出来ていったのです。ですから私の理想を形にするのが山川なのです。こういう出会いは天の配剤だと私は思っています。三国志に赤兎馬という馬がいます。千里万里を走る馬で、千年に一度現れる馬と言われていますが、私は彼を赤兎馬だと考えています。それで、山川と私で、1+1は2ではないが、違う生き方をしよう。1と1で11ではないか。私と彼は11倍の働きをしようということで、水と魚の関係になろうと言いました。魚と餌では、うまい餌があるとそちらになびいてしまいます。そこで互いになくてはならない存在になろうと言うことで、水と魚の関係になろうと思ったのが、この事業を始めるときかけです。

そしてもう一つ大きな出会いがあります。九州大学の岡田教授と、ユヌス・ソーシャル・ビジネスとの出会いです。岡田教授との出会いで、ユヌス・ソーシャル・ビジネスに深い共鳴を覚えました。ユヌス・ソーシャル・ビジネスには「7原則」というのがあります。皆さんにもお配りしましたが、この7原則の中で最も重要なのが利益の最大化ではなく、人々や社会を脅かす貧困・教育・技術・環境と言った問題を解決することです。第二に、財務的・経済的な持続可能性を実現すること。第三に、投資家は投資した額を回収しますが、投資を上回る配当は還元されない。そして7番目に、どんなことがあっても楽しみながら行うというものです。これが2006年にノーベル平和賞を受賞されたユヌス博士の7原則です。

この7原則を会社の定款に入れようとしたら、法務局からストップがかかりました。会社法上、配当が無い株式会社はありえないということです。そこで私はまず計画を立てるということで5つの軸を建てました。それは、我々が何としてもブレない組織にしようということからです。座標軸として、再犯の無い社会づくり、これを大目的としました。絶対軸として、ユヌス・ソーシャル・ビジネスの実践を考えました。そして中心軸には、天道無私、要するに利益最大でやるのではなく、無私の心でやろうというものです。それから戦略軸というのは国家戦略と言うことで、私はヒューマンハーバーの理念を「君が代」としています。友人からは「お前くらい厚かましい男はいない」と言われますが、君が代の理念を考えてください。小さな力が集まって永遠の幸せを願う歌と考えています。五番目の時間軸として、人間こそ最大の資源ということです。どんなに素晴らしいものがあっても私は人間くらい素晴らしい者はないと思っています。それから私の根本的な経営の哲学として、二宮尊徳の言葉ですが、「道徳の無い経済は罪悪である」という言葉があります。具体的に言えば産地偽装などがありますが、要はお金儲けのためにウソをつくことです。逆に「経済なき道徳は寝言である」という言葉

があります。要するに、いくらいいことをして、これだけ社会に貢献していますといっても、経済が伴わない事業は寝言であるという、二宮尊徳の言葉があるのです。これが私の考える経営の最も中心となる言葉です。

設立のためには資金調達が必要です。この事業のためには8000万から1億円が必要ということでした。そこで私はこういう事業を起こしたいということで皆さんに資金調達、要するにスクラップ買い取り業、産廃中間処理業をするということで、一口100万円の出資のお願いにあがりました。再犯の無いよい社会を作らないかということで呼びかけたところ、分かる人は3分で理解される。日本語にはいい言葉があつて、「ちょっと検討します」「ちょっとお時間ください」、それから「奥さんに相談します」。だいたいこういう人は駄目です。後から「出します」と言う回答が来たことはありません。他方、やはり即断即決してくれる人がいて、一口100万と言ったが、一口10万にしてくれとも言われました。私は70歳なので寿命があまり無いから、一口100万でないとダメと言ってきました。

私は中小企業同友会の会員でもあったので、中小企業の方々に訴えていきました。今は一口10万円からでもいいということで、現在資本金が5040万円になっています。配当は無いということですを言います。事業がうまくいったら、出資したお金まではお返ししますが、それ以上の配当はありません。事業がうまくいかなかったら、1円も帰ってきません。そういうことでお金を出してくれといいました。その中ではいろいろなことを言われました。中でも「保護司の肩書を使って詐欺をするのですか」とも言われました。保護司はそれほど信用があるのかとも思いましたが、これには参りました。なぜ詐欺かというと、まだ会社を設立していないからお金を集めていない。賛同者を集めているだけです。名前を巻紙に書いてこれだけの人が賛同しているということで見せましたが、会社が無い間にお金を集めると出資法違反に私が問われてしまいます。会社が出来てからであればいいのですが。だから、まだ会社が来ていない間に詐欺をするのですかと言われました。それを聞いた山川は号泣しました。「私がいるからそういうことを言われるのだ」と。しかし、私は彼を立ち直らせるためにこの事業を開始したのです。だから「お前を守るのは私だ」と言いました。そういう形で出資金を集めさせていただいております。

そういう中で日本財団が興味を示しました。就労・教育・宿泊の三位一体の仕組みが素晴らしいということで、少年院や出所した人に奨学金を出そうという仕組みができました。返さなくてもいい奨学金という形で日本財団に支援していただく制度です。それもヒューマンハーバーで教育を受けた人に対して、例えば中卒資格しかない人が高卒資格を取ったり、重機の資格や介護士の資格を取ったりしたいという人に奨学金を出そうという仕組みです。3年間は日本財団が支援をする。その後は自動販売機を設置し、1本10円の基金が日本財団に行き、そこからヒューマンハーバーへという仕組みを作りました。その基金で奨学制度を運営していくものです。だから私たちは今100台、あるいは500台の設置を目指して努力しています。昨年の12月12日に福岡空港で第1号を設置しました。福岡県

の麻生渡前知事が、現在、福岡空港ビルの社長です。お話しに伺って、空港に2台設置させていただきました。現在では全部で48台まで設置しました。これがたくさん増えれば、これは私の願いですが、罪を犯した人たちには国選弁護人制度というのがあります。要するに、弁護をしてもらうための費用は国から出してもらえます。ところが被害者には何もそういう制度がありません。できれば将来的には被害者救済制度ができれば、被害者の人がただ泣きっぱなしではなく、救えるという、そういう制度にしていきたい（基金をそういう制度に運用したい）というのが私の思いです。それはまだ相当台数が増えないと実現は難しいが、正直こういうことまで仕組みを作りたいと願っています。

そして、法務省は現在45%強ある再犯率を、向こう10年で20%減らすという数値を立てているが、その具体策はどうかというと、私どもにはまだよくわかりません。だが再犯防止には莫大な国費が使われていることは事実です。もちろん、犯罪した人たちを捜査するのにいくら金がかかった。裁判にいくらかかったという細かいことは私にはわからないが、安心・安全な街を作るためには莫大な国費が使われているのは間違いないと思います。それで、私は再犯を無くすということは自立更生することにつながるということだと考えています。それがどういうことかということ、納税者を育て、その人数を増やすことです。だから私は「これは国家事業である」と思っています。要するに刑務所に入ると一人年間約340万円かかるといわれていますが、こういう人が働けば納税者になっていくのです。何としてもこの自立の仕組みをつくっていききたい。そのために私は、大手の会社の皆さんにスクラップを出してください。私たちと取引をさせて欲しい、私たちはこういう方法で更生させていくプランを持っていますと伝えています。先日も九州電力の松尾会長とお話をさせていただいたときに、「あなたがやっていることは全く国家事業そのものです」と言われました。そして、九電工の河部会長は福岡県の就労支援事業者機構の会長でもあります。それで河部会長とお話ししましたら、会長が平成24（2012）年の8月8日付けで九電工の支社や支店・営業所にメールを配信してくださいました。「ヒューマンハーバーを支援してやってください。この会社は三位一体で再犯の無い社会づくりに貢献している。」そのおかげで、現在、私どもは九電工の75営業所と契約を結ばせていただいています。それから私たちが借りている若草工場は西日本鉄道（西鉄）さんの土地です。長尾会長に相談について事業のお話をしたところ、「全体で1200坪あるのですが」。私どもの予算の関係で、半分お貸りしました。そういう形で事業がスタートしたのです。

西鉄にはエムテックというバスの事業部があります。大手の会社には私が説明しているのだが、大手の会社は出所者を直接雇用できません。罪を犯した人を直接受け入れられません。だから私たちに仕事を回してください。そうすれば間接的に出所者を雇用することにつながりますと、こういう説明をしています。エムテックは最初一つの工場だけで、年間何百万円という産業廃棄物の処理代金を払っていました。それで、私どもは2つの事業をしています。一つは、産廃の中間処理という仕事です。これは産廃を出している事業者からお金をいただきます。反対に、金属類や業務用のエアコン等に対

しては私どもが買い上げます。その仕分けを明確にしていったら、西鉄エムテックは、1年間で私どもが払うお金の方が多くなってきたのです。その結果契約する工場が増えていき、今では39工場と契約しています。我々が再犯の無い社会の実現といういくら理念の高いことを申し上げても、相手にメリットが無かったら取引などしてくれません。相手もよし、私どももよし、世間よしという「三方よし」の近江商人の理論がありますが、この理論を実践しないと長続きしません。だから私どもは提案をして、わかってくださいということをお願いをしています。

「人生二度なしあの世に金は持って行かれぬ」というのは私の父の言葉ですが、父は私に何も残してはくれませんでした。私は社会復帰のためのリハビリ大学校を作りたいと思っています。これは、仮称で「ハーバー大学校」といいます。ハーバード大学ではないが、これも国から助成金をもらうということではなしに、隔離されたところから社会に復帰するまで、半年間だけでも勉強できる全寮制の学校を作りたいと思っています。その中で巣立ちをさせていきたい。私たちのこの活動で、ヒューマンハーバーで教育を受けた人は雇ってもいいという会社もたくさんできました。非行少年の特徴もたくさんあります。どういうことかという、彼等ようそをつくのが非常にうまい。それから約束を守れない。その背景にあるのはやはり自己否定と劣等感と言いますか、こういうものがものすごく強いです。

ところが、現在二十一歳の子が私どもの下で再雇用として働いているのですが、彼は掛け算でつまずいていました。ところがつまずいたところがわかると、がぜん学習意欲がわいてきました。今ではもう一生懸命仕事に従事しています。我々の会社で35歳くらいの九州大学卒の社員がいます。「二十歳の頃ははどうだったか」と聞くと彼の方が立派だと言います。やはり、よい環境を与えてやれば人間は大きく変わると思います。だからそういう大学校を作りたい、これが私に残された課題です。全力投球をしたいと思っています。

また、私は100人の経営者を育てたいと思っています。ヒューマンハーバーの次期社長は山川にしようと思っています。これはもう株主にも言っておりあります。なぜかという、彼がやればそ野が広がるからです。たしかに、妙な人が出てくるとも言われますが、不思議なことに、経営者の中には、昔このようにつまずいた人がたくさんいます。そういう人は私たちを支援してくれるのです。だから私は100人の経営者を作りたいと思っています。

そして日本を世界一の治安国家にするというのが出資金を募る時のテーマです。私は福岡の者ですから、まずは福岡でビジネスモデルを完成させます。要するに働く場が増えることが経済の活性化につながります。地方創生の問題にしてもそうです。やはりどれだけビジネスの力でそれを実践しているか、それがユヌス・ソーシャル・ビジネスの醍醐味だと思っています。資本主義というのは、株主に対する配当が大きな目的です。だから、サラリーマン社長になった人が言うのは、利益が出なかったらいつ飛ばされるか分からないということです。ユヌス博士の発想は資本主義でもなく共産主義

でもない、第三の主義を目指して、世界の貧困を無くそうということです。私もヒューマンハーバーは再犯を無くすということが目的です。どうか皆さんのお力添えをいただければと思っています。大雑把な話ではありますが、ご清聴ありがとうございました。

## 〈質疑応答〉

吉開多一招聘研究員：夏にも一度副島社長からお話をうかがっておきながらですが、もう一度お答えいただければと思います。ユヌス・ソーシャル・ビジネスの一番のポイントは持続可能性だと思います。補助金に頼らずに、自分たちで利益を出して自立してやっていくことが重要かと思いますが、西鉄エムテックさんとのお話で、中間処理業ということで、廃棄物を引き取るうちにだんだんエムテックさんの方が得をするということですが、ビジネスモデルとして分かりにくかったので、もう一度教えていただければと思います。

副島：分かりやすいくと、廃棄物というのはゴミなんです。ゴミの中におカネになるゴミもあるのです。ところがこれをゴミとして処理するにも、処理する側はどこにでも不法投棄できないのです。だからきっちりこのゴミはどう処理するかというマニフェストが必要なのです。だからこれを完璧にやっていくというのが私たちの仕事なのです。エムテックさんには箱を持って行って、鉄をいれる、ゴミを入れるという仕分けだけをしてくださいということを申し上げます。今までは何もかもごちゃごちゃにしていたものを仕分けするので会社がその費用を出していました。それを私たちが、金属類はお金になりますからと言って買い取り、ゴミはゴミとして処理費用をいただきます。そうすると毎月エムテックが20万円とか30万円とか産廃料を払っていったのが、次第に私たちが買い取るためにエムテックに払うお金の方が多くなってきました。資源ごみとかはいろいろあるがそのメリハリははっきりしていただきたいということです。

吉開：前はゴミと一緒に出していたのでお金になるものを捨ててしまっていた。そこでヒューマンハーバーの方で金属は金属として分けて、ゴミはゴミとした。それでヒューマンハーバーの方でお金になるゴミにはお金を払う。それをヒューマンハーバーとの間でやるようになったら、エムテックはお金をもらえるようになった。これまでゴミだったものがお金になったので、エムテックは利益をもらえるようになったということですね。だからソーシャル・ビジネスは言うのは簡単だが、いかにお金になる部分を出すかということも大事かと思いました。その関係で、そうした廃棄物に注目した理由があれば教えてください。

副島：刑務所から出たら真っ先に出来る仕事としてどういうものがあるかと考えました。農林漁業もあるが、その中で私たちは福岡市の街中にいるわけですから、着目したのがスクラップ業だったのです。これは戦前戦後の時期からある仕事です。分かりきった仕事なのだが、今うちの社員が20名で他に3名がバイトしています。その中で出所者が7名いる。そのうち1人は山川でうちの幹部で

す。もう一人は幹部の女性で、うちの会社の経理を全部任せております。人様からはそういう人に経理をさせて大丈夫かと言われることもあります。どうしてですかというと、また犯罪をするのではないかとされます。そういう時は、あなたの方が危険ではないかと答えています。彼女は本当によく働いてくれます。ほかに恵辰会という更生保護施設があります。そこから3名来ていますが、優秀な経歴を持った方がいます。大学も素晴らしい大学を出て、銀行出身です。何の犯罪をしたかはともかく、こういう人を目覚めさせていきたいと思っています。その信頼関係が無かったらこういう事業も組織も崩壊すると思っています。

石川：今の話に関連して、廃棄物の中にある再生可能なものに関しては買い取るということだから、廃棄物を出した企業は儲かるけども、買い取ったからには、そこから利潤を生むには、それを買い取ってもらう業者が無いといけません。そのルートもあるということです。

副島：きちんとあります。例えば電線ですが、皮を剥った電線がキロ200円とすると、これを電線のビニールをはがせば、キロ600円位になります。他に皮は皮で売れます。例えば、エアコンなどは私どもで分解します。その中に銅が入っていると、銅は銅、鉄は鉄、プラスチックはプラスチックと分けます。そうしますと価格差が出ます。その価格差を利用して雇用の場を増やしています。私どもでは現在病院との取引が増えていきます。例えばMRIなどは、海外などに売ることは違法になります。そこで私たちが引き取り、私たちのところで全て分解します。そして分解過程を写真で表示します。その中には全て金になるものがあります。そこが我々の仕事です。仕事量が増えれば増えるほど雇う人が増えるわけです。政治家に言わせると、日本人は人件費が高いと言いますが、決してそうではないです。

東京と福岡では違いがあるでしょうが、私どもは、支援対象者には初任給で20万円を払っています。失業保険等もつけます。みじめな貧乏暮らしをしてきた人に、豊かになるとどうなるかというイメージをつけたいからです。お金の管理も本人でさせます。私どもの会社に来た時は手持ち金が始どない人がいます。そういう人には私どもから前金を渡します。そうしないと1ヵ月間生活できないからです。お金が無いために再犯をするのです。そういうところから心がけてやらしてもらっています。仕事はこういう仕組みで生みます。福岡保護観察所からも仕事をいただき、パソコンのハードディスクなども破壊して証明書も出しますし、機密書類などの処理も増えています。お金を出すのではなく、ものを出せばこういう仕組みができるということを理解いただければもっと活力のある組織になると思っています。これが私の願いです。

試行錯誤といいますか、我々もこれでいいということは決してありません。しかし、本気になって取り組んでいることは間違いありません。世の中というのは例えば刑務所帰りの人、服役者に対して冷たい目で見られ、見られる方も冷たい目で見られるわけで、社会を変えることは私は難しいと思っています。私が山川に言っている言葉として「唾面自乾」というものがあります。

要するに、たとえ人から顔に唾をかけられても、我慢しなければいけない。怒ってはいけない。それに、唾を自分でぬぐってはならない。自分で辛抱しないとならないということが、私が最初に山川に教えた言葉です。罪を償った者への社会の目は厳しい。しかしそれでも我慢する。それができるようになってきたら、本当の自分が見えてくるということで、お話をさせていただいております。

### 【当日報告資料】

|                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>株式会社ヒューマンハーバー<br/>～再犯のない社会実現を目指して～</p>  <p>日本国内初の<br/>ユース・<br/>ソーシャル・ビジネス・<br/>カンパニー</p> <p>常盤 さんと 野々 さん</p> | <h2>法律がある限り</h2>  <p>2</p>                    |
| <h2>矯正<br/>懲役</h2>  <p>3</p>                                                                                  | <h2>リハビリテーション</h2> <h3>学校を創る</h3>  <p>4</p> |



|                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>就労<br/>教育<br/>宿泊</p>   | <p>人生は出会い</p>   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>ユヌス・ソーシャル・<br/>ビジネス革命<br/>岡田 昌治 先生<br/>(九州大学教授)</p>   | <p>【ユヌス・ソーシャルビジネス 7原則】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ユヌス・ソーシャル・ビジネスの目的は、利益の最大化ではなく、人々や社会を脅かす貧困、教育、健康、技術、環境、といった問題を解決することです。</li> <li>2. 財務的、経済的な持続可能性を実現します。</li> <li>3. 投資家は、投資額を回収します。しかし、それを上回る配当は還元されません。</li> <li>4. 投資の元本の回収以降に生じた利益はユヌス・ソーシャル・ビジネスの普及とよりよい実施のために使われます。</li> <li>5. 環境へ配慮します。</li> <li>6. 雇用者は良い労働条件で給料を得ることができます。</li> <li>7. . . . . . 楽しみながら。</li> </ol> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>始 計<br/>五軸を立てる</p>  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 座標軸 再犯のない社会づくり</li> <li>2. 絶対軸 ユヌス・ソーシャル・ビジネスの実践</li> <li>3. 中心軸 天道無私</li> <li>4. 戦略軸 国歌戦略</li> <li>5. 時間軸 人間こそ最大の資源</li> </ol>  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 経営哲学

道徳無き経済は  
罪悪である  
経済無き道徳は  
寝言である  
＝二宮 尊徳＝



13

## 設立のための 資金調達



## スクラップ買取り業 産廃中間処理業



14

## 新規事業は 融資が難しい



15

## 日本財団 奨学制度



16

## 自販機の数を増やし、 奨学金制度 の充実



17

## 法務省

45%超



20%減



17

## 再犯防止は 莫大な国費で



18

再犯を無くす



自立更生をする



納税者を育て数を増やす



国家事業である

19

## スクラップ 産廃のお取引を



20

大企業 ➡ 直接雇用

スクラップ ➡ 間接雇用  
の支援



21

## 三方よし WIN=WIN



22

人生二度なし  
あの世に金は  
持って行かれぬ



23

社会復帰のための  
リハビリ大学校  
(仮称 ハーバー大学校)  
を創設



24

100人の経営者を  
育てたい



経済の活性は  
雇用の場を増やす

25

日本を  
世界一の  
治安国家と成す



26

福岡の地から  
ビジネスモデルを



27

### 3 山川 敦「ヒューマンハーバーの事業運営および非行少年等に対する就労支援の現状と課題」

みなさん、こんにちは。ヒューマンハーバーの山川です。私の案内で軍師というようになっていますが、そのいきさつも少しお話ししたいと思います。私は副島先生と平成22(2010)年の8月4日に会いました。私は1,700日という服役を経験して8月4日に半年間の仮釈放で出所しました。

満期が2月16日でした。私は塀の中で暮らしてきて、副島先生は保護司をなさっている。私も塀の中で教官のおやじさんといろいろやっていたので行政側の方は親しくお話しできないと思いました。仮釈放で出てきたときに副島先生と一言もしやべらないでおこうと思ったのです。反抗というか意に沿わなかったら、また服役するので保護司の先生の言うことは、全部「はい」と聞こうと思って出てきました。そしたら副島先生は非常にフランクに話してくれました。「よう出てきたな」と。翌日またお会いして副島先生に「何をしたいの」と聞かれました。私も「27才からずっと会社経営をしていたのでこんなことをしたいです」と言いました。そしたら「文書をまとめて出してくれ」と言われました。1週間の宿題を出され、仮釈放の日なので言うことを聞かないといけないと思いました。8月4日に出てきて9月に副島先生の紹介ですぐコンサルタントという営業関係の仕事につきました。2週間くらいですぐ仕事に就くことができ、12月までそこで仕事をしました。12月になったときに副島先生が「スクラップの事業をしたい」と言いました。18年間で保護司をしているので少年とか無期の方とかいろいろな人を見てきて仕事を紹介するけども、やはり何日かしたらやめてしまう。そういったことを何年も繰り返しているものだからやはりそこで支援するものをつくりたい、ということでした。「ああそうですか、何の仕事をやるのですか」と聞いたら、スクラップ業でした。私は「スクラップ業ですか」と聞きました。私は46歳で塀の中に入り、51歳で出所しました。今から軽トラを持つものなあと考えたわけです。先ほど吉開先生が言われたようになぜスクラップ業なのか、と私も聞きました。そうしたら、「スクラップ業というものは戦前戦後からあり、やはり回収業という印象があるのではないかな。特別な資格とかそういったものはいらない」と言われました。そうすると誰でもエアコンをばらすとかクーラーをばらすとかできるからいいのではないかなということで、「そうですか」と私も答えました。

12月に話し合いましたが、私はさらさらやる気はなく、満期は2月なのでそれまで我慢すればいいのだな、と思っていました。そしたら年が明けたら正月早々こんな支援をしたいのだ、とまた言われたわけです。「教育も就労も宿泊もしたいのだ」といいます。今でも忘れていませんが、西鉄瀬野駅の前にミスタードーナツがあります。「先生はいつもミスタードーナツに行くけど、どうしてですか」と聞きました。「タダでコーヒーのお替りがあるから」と答えました。2時に入って大体5時までコーヒーを3杯飲みながら、2月16日まで先生が毎週面接してくれました。普通月に2回やればよいところを、週に2回やったときもあります。

それをずっと繰り返して満期を迎えました。嬉しいことに先生が私の家内と先生の奥さんと満期になったから、ということで食事会をしてくれました。これが嬉しくて本当にこんなにもしてくれるのだなと思って泣きました。そして、満期を迎えて3月に入ったときにまたスクラップ業の話をされました。私も満期を迎えたので7日間以上旅行もできるわけです。それで地元に戻って、それだけ言うのだったらと、調べてみました。ヒューマンハーバーはスクラップの買い取り業だが、先生も私もスクラップ業を全くしたことがありません。だったら調べよう、ということになりました。副島先生は福岡だから福岡でやるとなれば同業者には聞けない。そうすると他のところで聞かないといけないということで私も地元に戻りました。

スクラップをやっていないと調べるといことで、とびこみでスクラップ業をやっているところに話をしました。「すみません、教えてください」と聞きました。8時くらいに行ってそこの社長さんと会いました。そしたら気に入ってもらえて3日間8時から17時まで習いました。習ってこの業を調べて、このやり方だったらできるという企画書をつくって副島先生に渡しました。先生が「やりたいのはこれだろう」「この仕事はこうだったらいいですよ」と調査報告書を出しました。そしたら先生が、「うん、わかった。僕に言う前に家内に説明してくれ」と言われました。やはりお金は最低でも4,000万かかります。だから家内に言ってくれないか、と。わかりましたということで4月26日に私が奥さんに先生の想いを伝へてできると説明しました。最後に奥さんに4,000万円かかると言ったら奥さんはそっぽを向きました。その時70歳で、「30何年今までずっと不動産業をしてきた。今からお金を使うのか」と。奥さんは本当にふんとしていました。

それでも先生は「やろう」ということで、そのときに「ある蔵」という名前をつけました。再犯をなくそうということでそのときに「ある蔵」とつけたのです。先生が、「ある」にも『有る』『在る』、生きるという『生る』もある。あなたの命が有限であることを知れ。ここに有る、在る、生るを知れ。生きるもあるという意味は初めて知りました。副島先生が「あなたの魂の向上のために人生があるのだ」と言ってくれました。あと、蔵は心の中にあるということで「ある蔵」とつけました。なるほどなと思いました。

釈放される時私もそうだったが、お金がない。1,700日いたが大半は本を買ったり、日用品を買うとなるとお金を使います。さっきも言いましたが、給料の等級は一等から十等までであって最初は6円40銭です。1ヶ月働いても300円です。土日は休みだが、朝7時半から16時半まで働く。しかし金がない。5年近くいましたが、私は出てきたときには1万2,000円くらいしか持っていませんでした。仕事がない、居場所がない。たまたま私は仮釈放で、家内がいたから帰るところがありましたが、失業保険がないわけです。ないないづくしだが、副島先生がだからこそあるのだ、と言いました。『有る』『在る』『生る』と。そして「ある蔵」となりました。そういうことで設立準備室を4月26日に「ある蔵」に設立しました。

しかし、1年くらい経つと、「蔵」という字を使う居酒屋が増えてきました。準備室なので経理はしつかりやらないといけないうので、領収書を切るとき『ある蔵』で書いてください」と言うので、「居酒屋をしているのですか」と聞かれる。「何でですか。」と聞いたら「蔵がついてるから。」と言われます。そう言われてこれはまずいということでヒューマンハーバーと名付けました。2012（平成 24）年の12月3日に法人を設立し、現在資本金5,040万円。5,040万円だが、当時先生と設立準備室を開けたときに事業計画を作りました。8,000万円くらいかかると計画で試算が出ました。先生は「仕事集めと同時に資金を調達しなければいけない」と。先生と2人で4月26日から600社くらいの事業者を回りました。

2011（平成23）年4月から2012（平成24）年12月3日、この1年8ヶ月の間、朝も昼も日曜日です。とにかく8,000万円近くかかるということで、先生と2人、スクラップ業だからスクラップを出している会社を600社回りました。テレビでも言っていたが、それでほしい目標の半分くらい400トンのうち200トンくらいできたので、「先生これで行きましょう」ということで12月3日に法人を設立しました。そうしたときに九州大学ユネス・ソーシャル・ビジネスと出会ったわけです。

会社の従業員は今23名です。設立した当初は私を入れて6名だった。2期目の今は23名です。23名のうち服役経験者が7名、正社員が16名です。したがって1年と9ヶ月で5名から23名に増えました。このようにして会社をつくり、スクラップ業をしながらやっています。

私の今日のテーマはヒューマンハーバーについてです。ヒューマンハーバーは人間の補給港です。「ある蔵ではだめです」と言ったらドック入りしてもう一度巣立とうということで、副島先生がある日ひらめいて『ヒューマンハーバー』という名前をつけました。ドック入りしてもう一度大海原に出ようという意味です。この前ソフトバンクが優勝しました。（資料を見ながら）これが福岡ドーム、これが福岡タワーです。交通事故とか可能性と言ったらおかしいが、さっき副島先生が言ったように誰でも犯罪者になることがあります。罪を犯すと刑務所とか少年院に入ります。しかし自由がないと、教育の場がないと満期になったときに就職していきなり社会復帰をするのは難しい。難しいからUターンする人が多いのです。これが再犯です。再犯率は46%あり、Uターンする人が多いのが現状です。これはやはりいきなり出るから難しい。そこでヒューマンハーバーは自立、自律、而立で支援しています。この前この而立を二宮先生から習いました。「三十にして立つ」と。これらの「じりつ」をしてヒューマンハーバーで三位一体でやろう、と。私は刑務所に入っていて思いましたが、やはり若い人から年寄りまでいろいろな人がいます。そして教育を受けていません。中学は義務教育だから卒業します。しかし、大概が遊んで勉強していない。今うちにもいるが、分数とかそういうのがわからない人が多いです。そこで三位一体のものをやろうということでした。まず働く場所をスクラップ業のヒューマンハーバーで見つけてやる。教育はちゃんとハーバーアカデミーでやる。泊まる場所として寮をつくる。そして自立更生・社会復帰をさせる。再犯のない社会にするのだという理念で三位一体

プロジェクトをやっています。

ヒューマンハーバーの組織についてです。ヒューマンハーバーがあり、「ある蔵」が収益部門で就労支援をします。「そんとく塾」は教育支援、宿泊の方は天に心と書いてひらがなで「てんしん館」、相談窓口もあります。実際に相談も多いです。先ほど言っていた被害者支援までやります。そうすることによってここが加害者の部分で、ここが被害者の部分である。このような考え方で組織をつくりました。現在、教育部門でアカデミーと寺子屋とシェルター、非行防止の取り組み、カウンセリングがあります。大きなところはカウンセリングです。これは九州女子大の准教授の友納先生が月に2回カウンセリングをしています。

大学ときちんと契約をしています。ヒューマンハーバーで働いている子が月2回のカウンセリングを受けます。やはりさっき言ったように環境とかそういったものをいろいろ持っていて、これが非常に大切ということで取り入れました。そういうふうにして組織を作っています。教育については後で二宮先生が話されます。二宮先生は大学を卒業してから40年余りずっと教員をなさっているので先生にお任せしようということです。

次に、就労支援の現状と課題です。今、矯正施設の現状としては少年院では、資格取得などの勉強はします。長期間を要する資格は難しいと書いてある通りです。ニーズに合っていないものもあり、私も刑務所にいるときにボイラーと危険物取扱の資格を取ったが、役立っているかと言われると役立っていません。仮釈放のために取る。資格を取ると仮釈放が早くなるというわけです。大学を受験する人はほとんどいません。矯正施設（刑事施設）でも懲役執行のためのいろいろな工場があります。10工場あまりあって、今の時期に風邪をひいたりすると薬の小さい袋をもらいますが、これも作ったりします。棺桶なんかも作ります。介護などの特定資格はあるが、美容となると2年間くらい行かなくてはなりません。コースがない場合もあるが、とにかくこういった矯正施設でもいろいろなことをやっています。教育も然りです。しかしそれが社会に出た場合、ニーズに合っているかといえばなかなか合っていません。

これは法務省の犯罪白書のアンケートです。本当にその通りだと僕は思うが、ここを見てわかるように出所後はきちんと仕事をして規則正しい生活を送りたいという人が8割近くいます。もう二度と犯罪はしないとします。みんな刑務所にいるときは、刑務所には絶対に戻らないと言います。刑務所の中では番号でしか呼ばれず、人間扱いされないからです。しかし刑務官の中にはいいおやじさんもあります。刑務所社会として、いい人も悪い人もいます。90%の人がもう犯罪はしないと思っています。しかし現状、ふたを開けてみると再犯率が45パーセントと高い。この問題はなにかというやはりさっき言った「就労の難しさ」です。現状を示している協力雇用主に対するアンケート調査があります。本日、全国就労支援事業者機構の山田先生が来られていますが、支援機構はあり、みんな働きます。働くが、社会での常識とか社会人としての自覚、働く忍耐と体力、勤労意欲、職業倫理



の問題等があります。そういった問題があるのでなかなか就労が長続きしない。3日働いたが、これらが備わっていないのでなかなか就労につながらない。雇用主の意見としてやはり出所して根気と体力がないと雇用してもすぐにやめる。さっきの5つのこの問題があるからです。

次に、資格は仕事を覚えながら取得可能、とあります。出てきて働きながら、というのはなかなか難しいのです。働くという自覚を身に付けてほしい。これは副島先生も言っていました。副島先生も何名も紹介するけどすぐやめてしまったりするのだ、と。逆に車を持って逃げたりします。そういう意味でも雇用主としてなかなか採用がしにくい。これが問題です。そういう意味では就労が難しいのです。無職の人と仕事がある人は、新しい調査では4倍くらい再犯率に差があります。見えないところで、実際は6倍くらいだと思います。全部の犯罪者のうちの約3割が再犯をします。さっきのNHKで見たように刑事事件は減っているが再犯率は上がっています。

それは働く場所と住むところがないということを意味しています。それとお金がない。私も出てきたとき12,000円くらいしか持っていませんでした。そういう現状があるわけです。

雇用の受け入れに協力する事業者は10,243社あります。ヒューマンハーバーも第三種会員になっています。就労支援事業者機構は全国にあります<sup>3</sup>、この10,243社が直接雇用しているのは2013(平成25)年で2,111人です。雇用率は21%。就労の直接雇用の難しさがあるのです。だからこそ、すぐ外に出すのではなくして教育をして、宿泊させて、勤労意欲をちゃんと自覚させることを三位一体で行なうのです。なぜ三位一体かというみなさんご存じのとおり、就労というのはハローワークです。教育というのは厚生省の職業訓練制度、宿泊は更生保護施設であります。行政は縦割りです。縦割りを一つにしないとなかなか難しい。そこで副島先生と、全部一緒にやろうと言うことで教育を真ん中に持ってきました。三位一体でなければだめなのです。ただ働かせればいい、泊まるところがあればいいというのではない。やはり職業倫理の問題で教育、特に教科教育が必要です。三位一体の支援体制(プロジェクト)をつくったわけです。

普通、仮釈放で刑務所から出ると保護観察所へ行きます。保護観察所へ行って社会復帰をして自立をする。これが普通です。ヒューマンハーバーは三種会員なので保護観察所からこういう人がいる、と相談を受けます。三位一体のところでやりましょう、と。就労支援、つまりまず働くことをしましょう、と。ヒューマンハーバーはNPOではなく株式会社なので継続可能な企業です。支援がユネス・ソーシャル・ビジネスの考え方です。そうすると収益をあげなければいけません。ましてやスクラップ業を副島先生も私もやったことがありませんでした。そこでやはりこの再犯をなくすために600社回りました。600社回ったときに300社がはいですよ、と言って賛同してくれました。2014(平成26)年10月現在、181社の企業が就労支援の一環としてスクラップを出しています。

「就労支援10%運動」というものがあります。「三方よし」の考えがあるので競合して共存できるようにしないといけません。それでスクラップを100%くださいではなくて10%ください、とするわ

けです。要は他のスクラップ業界もあるから共存しないといけないわけです。100%企業に物を出してくださいではなく、10%出してください、というふうにして呼びかけ、10%だったらいい、と181社が出ています。

そこで就労が始まります。回収に行ったり、分解したりします。その中にはエアコンやビカ線、鉄筋があります。ヒューマンハーバーは中間処理業の資格を持っています。そこでさっき吉開先生と石川先生がおっしゃっていましたが、具体的にどんなことが説明します。

例えば、これはプラスチックのゴミです。中間処理業をやっている私どもはお客さんがゴミを出すとき、この処理でお金をもらいます。しかし中に金属などが一緒に入っていると売れるので、これは買い取るという具合です。

買い取って分解をするのですが、それがさっきの西鉄さんはかごの中に全部一緒に入っていました。大手の人に多いと思いますが、西鉄さんは大手だから担当者の人も会社のお金だと思ってなんとも思わなかったのでしょう。この部分を産廃として業者にお金を払っていました。副島先生がさっき言っていたようにこれをきれいに分けました。そうすると西鉄側はこれは処理費だな、これはヒューマンハーバーが買ってくれるのだな、ということになります。今西鉄だけでも何百万円もコストダウンができてきました。コスト削減できていい関係になっています。そして39の営業所と契約しています。

やはりどんな理念を掲げてもさっき言ったようにビジネスとして相手企業とやらないといけません。あくまでも社会問題を解決するためにやっていますが、ビジネスとして成り立ってないといけません。こんな理念でやっているからヒューマンハーバーに同じようにお金をくれと言っても継続できないわけです。ちゃんとしたビジネスとしてやっている。業務でスクラップを出すことによって間接的な雇用の支援になる。その仕組みを考え、考えようになりました。

就労の他に、やはり大事なのが教育です。教育の中でも資格取得など職業訓練や教科教育です。実際に中にいる2人が2ヶ月くらい勉強して普通の情報処理の3級を取得しています。日本人向けの日本語検定3級も取得しています。2級は大学レベルらしいが、今度は2級を取ると思います。そしてちゃんと教科教育をします。足し算、割り算、分数といったことをやるのです。人間教育もやはり必要である。コミュニケーション能力も身につけないといけない。カウンセリングもします。

そしてヒューマンハーバーは宿泊支援をしています。ちゃんと住むところも準備しようと寮もかかえています。しかし、ここにひとつ問題があります。出所者が出て、保護観察所からこういう人がいます、と紹介されます。ヒューマンハーバーがこの人を採用する、となる。法務省関係の人がいたらわかるかと思いますが、面接を受けて出所するまで大体早くて6ヶ月くらいです。しかし2ヶ月くらい前打診があるのでAさんを受け入れると決めて寮に入るまでは6ヶ月から8ヶ月かかります。その間寮は空き家賃を払う。これが現状です。ここにも課題があります。いくらいいことをしようとしても企業がなかなかこういったことはできません。打診があつてここに社員として入れるためには半

年くらいかかるからです。空家賃は安くはありません。一部屋 5 万円で、1 年で 60 万円です。ヒューマンハーバーは福岡の保護観察所から自立準備ホームの資格を 1 年半かけて取得しました。来年 1 月に大分少年院から 1 名入るのですが、話が合ったのが 8 月だったのでこれも半年かかります。自立準備ホームの施設を借り上げたのは今年の 4 月。今現在は誰もいない。4 部屋なので 216,000 円を毎月払っています。宿泊の課題というもあります。受け入れるまでに時間がかかるので経費がかかります。これをなんとかできれば、と思っています。しかし受け入れるためには帰住先がなければいけません。どうしても部屋が必要であるのでやっています。そういったことに取り組みながら、人間力を向上させ自立させる。こういう仕組みです。

最初これを副島先生に見せました。先生の三位一体の考えのとおりです。ヒューマンハーバーは 2 年目で、スクラップ業を初めてやりました。2012 (平成 24) 年の 12 月、この青い柱が 1 期目である。このとき売り上げ 3,300 万円でした。

今年の 9 月に 2 期目が終わりました。売り上げは 1 億 3,700 万円でした。380%、1 億円ちょっと伸びました。中小企業 1,000 社を相手にするのと、大手 1 社を相手にするのと同じです。福岡でいう「7 社会」、大企業の九電、西鉄、JR 九州など。今度 NTT 西日本と契約します。NTT 西日本と契約できたときに NTT ドコモとも契約予定です。これはやはり理念もあるが、アドバイザーの九州大学の岡田教授のおかげです。うちの会社の案内をみてもわかると思うが、岡田教授は NTT の出身です。そこで岡田教授にお願いして、NTT 関係や西鉄関係に話をしてもらいました。岡田教授とともに、7 社会など、大手と取引をしているので 1 年で 1 億 3,700 万円となりました。来期は 10 月から始まっているが、目標は 2 億 3,000 万です。177%伸びる。できたらいいな、は目標で立てない。裏づけがしっかりあるので 2 億 3,000 万円くらいは行くとします。そのあたりヒューマンハーバーがこれだけ売上を上げているのもビジネスとしてちゃんと成り立っているということです。ただ理念がいいだけではない。そうすると持続可能な社会問題の解決になる。NPO が持続しないのは寄付が終わったら事業は終わりだからです。副島先生がすごいなと思ったのは、この仕組みを考えて補助金とかそういう言葉が一言も出なかったことです。最初から自前でやろうとしていた。僕も先生のこの考えに命をかけてやっているが、ヒューマンハーバーがこれだけきたのもやはり先生の考えがすごいからです。それで僕らは社員一同先生についていこうというふうにして今やっているところです。

最初のときは 5 名で、1 年ちょっとで今 23 名になりました。この 3 期目では 30 名にはなるのではないのでしょうか。副島先生がビジネスモデルを全部つくろう、と言いました。資料の 16 ページにも書いてあるが、ヒューマンハーバーがやっている考えであれば取引先はできます。新規企業でもこれだけの得意先はできる。このモデルであれば全国でできるということです。多くの方々が支援していただければできます。ヒューマンハーバーはこの事業モデルを全国につくりたい。そういうことで最初からやっています。7 年で上場しようという事業計画をつくりました。そのままいけば、これは可

能です。そういう想いでやっています。やはりヒューマンハーバーのいいところというか努力している部分が根幹にあるので日本財団がいいと言ってくれました。お手元の14ページに夢の貯金箱と11ページに再チャレンジ奨学制度があります。要は刑務所から出てくる人たちに奨学金を出す。13ページに写真が載っているが、自動販売機で1本コーヒークーラを買うと130円のうち10円が寄付になる。だいたい普通にやって1台あたり年間5万円の寄付が財団へ集まる。ヒューマンハーバーも自販機を置いているがだいたいひと月4,000円前後、年間5万円です。5万円が財団の方に集まります。11ページの資料にあるが、そうすると奨学金制度で1人最高30万円の奨学金を給付されます。それを10名なので300万円出す。目標としては60台あればできます。

日本財団は3年間は支援すると言われました。その後の運営は自動販売機でやってください、と言われました。昨年12月の設置からもうすでに48台、1,000台を目標にしようと今やっています。奨学金制度は刑務所から出てきて資格を取りたい、大学や高校の資格を取りたいという人に30万円給付。これは画期的なことです。そういう意味で自動販売機は間接的な就労支援になるわけです。14ページを見てもらえればわかると思いますが、この販売機のいいところは新しく販売機を設置しないでもいいことです。現在ある販売機の契約を変えるだけでいい。今までの販売機をそのまま使って寄付型に契約を変更します。契約を寄付型に変えるだけです。そうすることによって再チャレンジ制度というものに寄付金が行く。新規でやるのはなかなか難しいが、既存の販売機をそういう社会貢献に使えます。この自販機はヒューマンハーバー独自のロゴが入り、デザインされています。今吉先生というキリンビールのデザインを手掛けた方が作られました。そういう意味でもヒューマンハーバーと一緒に日本財団さんも7社会も一緒にやろうということになりました。経済同友会などいろいろなところで副島先生が講演をして、いろいろな人たちの支援を受けています。

NPOではなく、株式会社で運営しているところが日本で初めてです。ユヌス先生からも日本初の認定をもらいました。ソーシャル・ビジネスはたくさんあるが、ユヌス・ソーシャル・ビジネスはまだまだ6社くらいしかありません。ヒューマンハーバーはその第1号です。一般的にソーシャル・ビジネスと言うが、ユヌス・ソーシャル・ビジネス、つまり本当の意味で社会問題解決のためにやるという企業はまだ全国に6社です。海外でやっているのはユニクロとワタミがあります。これはバンングラデシュでやっています。国内でやって、実際に利益を上げているのはヒューマンハーバーが第1号です。ソーシャル・ビジネスというのは言うのは簡単だが、普通のソーシャル・ビジネスはNPOでやっている方が多く、何万社とあります。しかし、寄付金が途切れたらもう終わりです。社会問題というのは社会の問題なのだから1日や2日で解決するわけではありません。副島先生は100年かけて、水が流れる如く、流水に文字を書く如く、と言われました。この事業は再犯をなくすということが目的です。この仕組みであれば世界にも通用するのではないかとユヌス先生もおっしゃっていました。韓国からも、今年視察に来られました。そういう意味でも日本で初めて、世界でも初めてだと思うが、

このユヌス・ソーシャルビジネスで社会問題をなくしていきたいと思います。

先ほど最後に先生が唾面自乾と書かれました。僕も先生に言われました。600 社も回っているときに、賛同者を集めているときに、設立準備室のときに、1 億円近くかかるのでそういった資金を集めようと思ったときです。おかしいのではないかと、騙すのではないかとという人がなかにはいます。そのとき、ある役所の役人から「先生、保護司の名刺使ってやらないでくださいよ」と言われました。詐欺みたいなことしないでくださいと。「服役経験者の僕がいるから先生がそう言われるのだ」と帰りの車の中で号泣しました。先生は福岡でも著名な方で人望がある方です。たまたま僕と一緒に歩いてただけで詐欺なんかしないでくださいと言われました。僕のせいだと先生に謝りました。僕も自立しようと一生懸命やっているが、言われて悔しくて号泣して先生に謝りました。先生は「俺が守る」と言ってくれました。

今でも涙が出ます。先生がそう言ってくれたので僕も家内も本当に嬉しくて「自立するのだ」と思いました。僕が受けて気づいたように出てきた人たちに1人でも2人でもこの想いをさせてあげようと思っています。副島先生には本当に感謝しています。まして5年前、出てきたときにまさか早稲田大学で講演するとは思いませんでした。そういう誇りの持てる仕事をさせてくれた先生に本当に感謝しています。社会問題解決というのは本当に想いがないとなかなかできないということです。真剣にならないといけなないと僕は思います。また、僕は副島先生との出会いの中で本当にすごいなと思っています。100 人の経営者を出すのだ、と。そしたらすごいことになると思います。僕が次期社長になったときに社員は20 何名いる。100 人いたら雇用が2300 名になる。これが全国にできたら1 万人もできる。再犯したら費用は1 人340 万円がかかります。ヒューマンハーバーには服役経験者が7 名います。3 年間誰も再犯していません。これをつくっていかばいいは納税者をつくり、財政も潤う。すごいことであります。みなさんとも何かのご縁なのでぜひ何かあったらヒューマンハーバーを少しでも支援していただければと思います。販売機があったら契約を変えてくださいと言えば奨学金になります。教育をすると再犯がなくなります。そういう資金になります。簡単ですが、これで終わります。

## 〈質疑応答〉

細野ゆり招聘研究員：貴重なお話どうもありがとうございます。先ほどの副島社長の話のつながりで少しお聞きします。当初設立したときに3,500 万円お金が必要で企業の方から30 社くらいから1 人一口100 万円で出資を集めたということでした。普通の株式会社だったら配当を出すのが、これはうまくいかなかったらお金は戻さないし、配当もないというかたちで集めたわけですが、ビジネスモデルとして考えた場合に、100 万円ずつ集めたお金は今どうなっているのでしょうか。

山川：普通の株式会社をつくった場合、資本金が必要です。普通の会社でも例えば5 名で100 万円だと500 万円、これが資本になります。事業をやって、普通うまくいけば、利益の配当が出ます。し

かし普通の株式会社でもうまくいかなかったら倒産します。この資本金はなくなります。普通の会社と一緒に。ヒューマンハーバーの場合は48名くらいの出資者です。48名のうち、株式会社ですから、株主は株主総会で議決権を持ちます。そこで、理念が一緒の人とやろうということで株式の中身を普通株と優先株に分けました。株の種類を二つに分けたのです。

この普通株というのが普通の会社のやり方です。多く出した人が取締役になったり株主になったりして、議決権を持ちます。ヒューマンハーバーは優先株が44名くらいいますが、さっき言ったように配当はないですよ、と。ユヌス・ソーシャル・ビジネスの3番目は配当はないとしています。それをどういうふうに実現するかというと、この優先株を持っている38名の人たちに合意書というのをつくって経営権はないですよ、と合意します。経営権がないので議決権もないということを知ってもらいました。やはり株式会社だから多数決で決まるわけですが、2人だったらできないので優先株と普通株に分けました。

ユヌス・ソーシャル・ビジネスの3番目の配当がないというのは会社法上できません。剰余金のところが定款に出ています。26条にあると思うが、会社法上は剰余金は必ず出る。ユヌス・ソーシャル・ビジネスの3番目を実現するために優先株と普通株に分けました。普通株は今4名しかいません。副島先生と二宮先生と私の家内ともう一人の4名です。私は5年間株主になれないのでうちの家内が株主です。普通の株式会社では48名は普通株です。そうすると何かするたびに議決して割れたら大変なことになります。ましてこの崇高な理念でやる場合に、48名もいるとこのソーシャル・ビジネスをやめようという場合もあります。それを防ぐために岡田教授と一緒に話をして、優先株と普通株に分けました。ヒューマンハーバーの場合、この株のお金は事業の計画では1億円使う必要がありました。教育支援だけでも月百何十万とかかります。2年間やっているので2,000万円くらいかかっています。1億円のうちの5,000万円貸してもらいました。したがってイニシャルコストで不足します。そして、先生が持ってこられました。先生はすごい、本気です。老後のお金をこっちに使われました。だからヒューマンハーバーは上場して返そうということにしています。そういう意味でも本当にお金はかかります。

ご存じかと思うが、やはり社会問題を解決しようと思ったらコストがかかります。だから予算をつける。ヒューマンハーバーはそれをあてにしていけないのです。この部分でお金が必要になってきました。教育部門でも2年間で1,000万円いくらかかります。しかし、生産性はないわけです。さっきの組織図があるが、教育の部分は生産性がありません。資料にもあるが、ここで教える先生方はすべて教員免許をもっています。全員ボランティアではない。社員として受け入れています。この部分までこれで稼がないといけません。今ヒューマンハーバーは月1,500万円の売上です。スクラップ業界でまして2年も経ってない会社が1,500万円はすごいことです。この部分までこれで稼がないといけません。まして家賃までやらないといけません。そうすると当然ご存じのように損益分

岐点は高い。当然そうです。お金をもらう部門を二つもっています。分岐点は高くなる。それぞれが収益性をもっていけば分岐点はもっと低い。おかげさまでヒューマンハーバーの利益率は45%であります。それが直接実験費用をもってきたとしても37%くらいです。

スクラップ業界というのは戦前戦後からあって利益率が高いです。要はその業はなくならないということです。好不況に左右されません。大手とやったらそんなに好不況には左右されません。中小企業でやっているとはやはり末端になるから左右されます。スクラップ業というのは戦前戦後からずっとあります。どんな不景気になろうが、何しようが建物はできるし壊しもあります。したがってそういう意味でも先生が着目したところはすごいのです。ヒューマンハーバーは資本金の部分で、工場を造ったり、コンサルをやる設備投資に使っています。スクラップ業をやったことがないので三重県からコンサル担当に来てもらいました。月80万円の負担。一年間で960万円です。それだけでも相当かかります。やはり一流になるためには一流とやらなくてははいけません。だからコストもかかります。3年目で単年度決算が、やっと黒になるでしょう。事業がうまくいけば優先株の人たちから先に配当を出せ、経営に参加している普通株の人たちには後の配当です。

細野：もう一点質問があります。イギリスの刑務所でやっているソーシャルインパクトボンドというのはご存じでしょうか。

山川：知っています。ソーシャルインパクトボンドでも一緒です。ヒューマンハーバーはそれをやっています。投資をする。だから全く一緒のことをやる。今でこそイギリスのインパクトボンドとよばれ、成功しています。あれは多くの理解が必要です。

細野：ソーシャルインパクトボンドは結局再犯率の低下ということです。認知行動プログラムをして出所者の再犯率が下がればお金が戻る。出資したら戻るという形です。このヒューマンハーバーの場合、事業としてひとつ経営が成り立っているということですね。教育支援や就労支援で実際に教育を受けた出所者の方が、将来的に再犯をしないかどうかということの指標を計らないと社会課題を解決したかどうかを世間様にご示せないと思います。その指標とかは今後組み立てていくのでしょうか。

山川：おっしゃるように数値化しないといけないと思います。社会貢献をしようということで九州大学の岡田教授とこれの数値化を今研究しています。もちろん今言うようにどれだけの成果が出たか数値で示さなければいけない。それは大切なことです。株主だけではなくて社会に対してもどれだけの教育効果があつたか、指標をつくらうということです。

石川：それに関連して質問ですが、たとえば現状だと出所者の46%が5年以内に再犯をする。今ここで選んでいる元受刑者というのは選んでいるので場合によってはいい人を選んでいる。アトラダムでとっているなら別であるが、いい人を選んでいるということになりますよね。必ずしも46%の再犯者はこのヒューマンハーバーの対象者ではない。46%より低いという単純なものではないで

あろう。当然アトランダムにやっていないと思いますが、そのあたりの問題はどうかクリアしていくのでしょうか。

山川：よくその質問を受けます。さっき言ったように、ヒューマンハーバーは保護観察所からいろいろ紹介されます。そのときにやはり選びます。ベンチャーであるので成功事例をまずつくらなければいけないからです。成功事例をつくって、ソフトが固まったら今言ったように薬物とかいろいろな人たちに広げていく。やはりビジネスモデルをつくる。つくってソフトをいろいろなものにあげていく。ヒューマンハーバーは薬物や暴力団、性犯罪はだめ、と選ばせてもらっています。しかし、ビジネスでやる以上はソフトを確かめないとはいけません。

それができた後に今おっしゃったように、ランダムにいろいろな人たちを入れていこうと思っています。ヒューマンハーバーがこれをやったときに先生がおっしゃるように選んでいるからできる、離職者がいません。もちろん選んでいるからそうです。しかしこれがモデルとして確立できれば薬物だろうがなんだろうがいろいろな人に当てはまってきます。実際ヒューマンハーバーは、表向きは選んでいると言っているが、実際はランダムのにもやっている部分があり、それでモデルをつくっています。最初からやっていると言うと、相談窓口にいるいろいろな人の電話がたくさんくる。だから、このような人たちが対象であるというヒューマンハーバーの基準を言っています。あとは観察所から来た人たちを受け入れています。

どうもありがとうございました。

## 【当日報告資料】

|                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                        |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>株式会社ヒューマンハーバー(HH)</p> <p><b>ある蔵</b></p> <p>～再犯のない社会実現を目指して～</p> <p>就労支援部門</p>  <p>2014年10月1日版</p> | <p>会社名の由来<br/>ある！ある？ある〇蔵</p> <p>有る・・・あなたの命が有限で有る事を知れ。</p> <p>在る・・・今此地にあなたの存在があり。<br/>あなたに価値がある事を知れ。</p> <p>生る・・・生をあると読み、あなたの生命が輝く為にいき<br/>あなたの魂の向上のために人生はあるのです。</p> <p>蔵・・・豊かさもお金も幸せもすべてあなたの心の中にある</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



## ユヌス・ソーシャル・ビジネス (YSB) について



▲ユネスコ・フォーシヤム・  
ビジネス・カンパニーの  
認定ロゴ

## 【ソーシャル・ビジネス 7原則】

- 1 ユス・ソーシャル・ビジネスの目的は、利益の最大化ではなく、人々や社会を豊かにする資源、教育、健康、技術、環境、といった問題を解決することです。
- 2 財務的、経済的な持続可能性を実現します。
- 3 投資家は、投資額を回収します。しかし、それを上回る配分は返されません。
- 4 投資の元本の回収に同じように利益はユス・ソーシャル・ビジネスの需要とよりよい実施のために使われます。
- 5 環境へ配慮します。
- 6 雇用者は良い労働条件で給料を得ることができます。
- 7 .....(中略).....

## 会社概要



|        |                                                                         |                                                             |
|--------|-------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| WEBサイト | <a href="http://www.kurumaru-box.net/">http://www.kurumaru-box.net/</a> | <a href="http://www.spruno.net/">http://www.spruno.net/</a> |
|--------|-------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|

アドバイザー ● 九州大学 教授 岡田 昌彦氏【ユネスコ・ソーシャル・ゼジネス】

協力・連携先 ◆ 特定非営利活動法人 福岡県就労支援事業者協議会

## 沿革

平成23年04月26日 設立準備室を設置

平成23年05月07日 会社設立に向けた協賛者の専事活動開始

平成24年07月22日 九州大学SBAC主催のソーシャル・ビジネス・フォーラムinアジア2012

(SIFA2002)で2006年のノーベル平和賞受賞者ムハマド・ユヌス博士が提唱するビジネス手法である「ユヌス・ソーシャル・ビジネス」に刻した。

2013年09月20日 教育支援部門「さんといっしょ」において専門家チーム発表

平成24年10月27日 九州大学SBRCより、日本国内第1号となる「ユネスコ・ソーシャル・ビジネス」

平成26年12月03日「株式会社ヒューマンハーバー」として法人設立

平成25年01月17日 設立記者会見を九州大学SARCにて実施。  
新聞社6社、通信社1社、テレビ局2社が参加。

平成25年03月11日 最初の支援対象者を社員として雇用

平城25年03月23日 W-Careプログラム(※13ページご参照)開始

平成25年04月25日 教育支援部門「そんとく塾」授業開始  
平成25年06月03日 2人日の支援対象者多社員として雇用

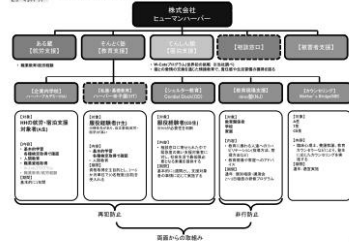


## HUMAN HARBOR

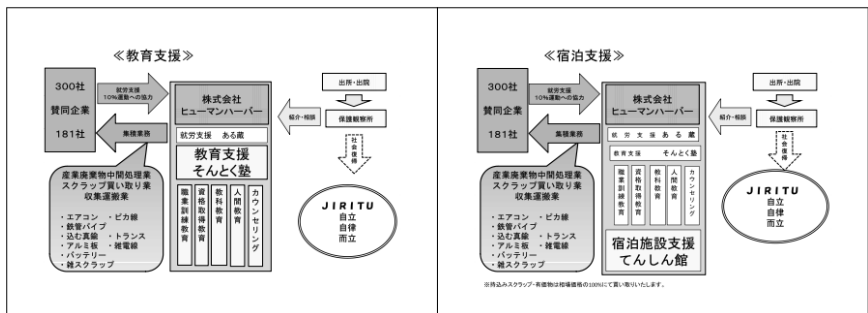
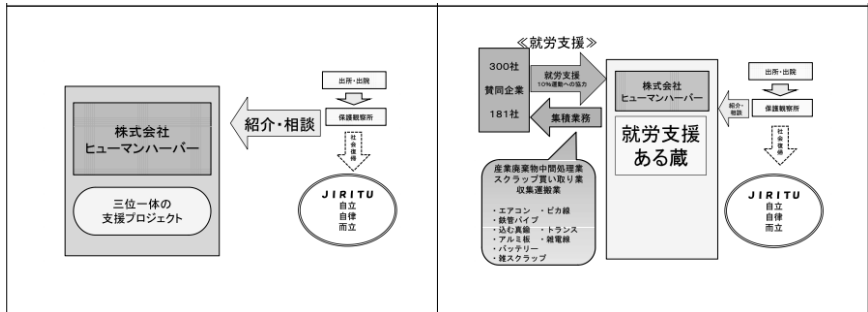
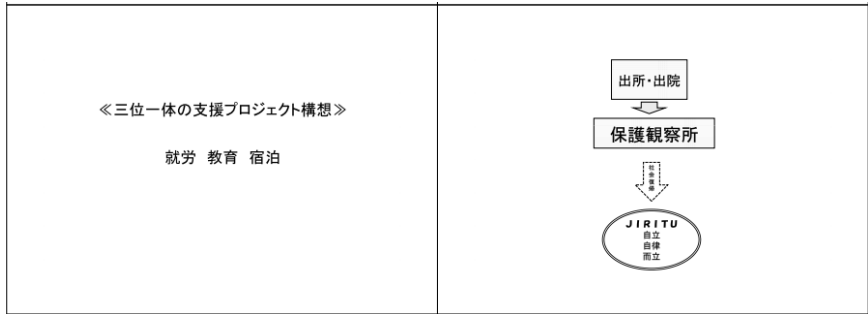
～人間の補給港・人生という航海に再び出るための母港～

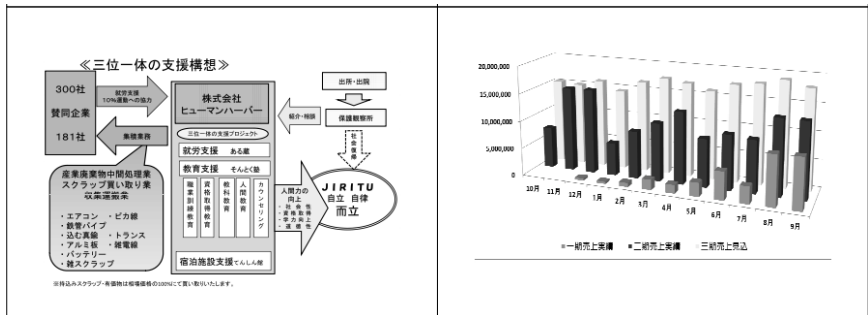


## HHの目指す支援の形









#### 4 二宮 実「ヒューマンハーバー『そんとく塾』の概要および非行少年等に対する教育支援の現状と課題」

こんにちは。そんとく塾の二宮でございます。石川先生から8月にお会いした時、何でそんとくかという質問がありました。

1つおはやり社長の副島が言いましたように、二宮尊徳の報徳思想とユヌス・ソーシャル・ビジネスの考え方、理念と合致しているということがあります。これは日本の風土、日本人の考えに近いようです。お金ばかり儲けて私利私欲に走るというよりは、利益が上がったら地域のために使おうというのが、昔の村内などではあったかと思います。これが農耕文化の一つの特徴だと思います。これまで挙げた利益を社会貢献のために使えば、みんなが幸せになれるよというのが報徳思想だと思います。

僕は二宮尊徳とは何らつながりはありませんが、社長の副島が「二宮せつかくなのでそんとく塾にしようか。」といわれ「そうですね。それで行きましょう。」ということでスタートしました。

先ほど社長の副島が三昧一体のことで、教育は「大事だ」といわれ、凄くプレッシャーを感じながらここにいます。大したことはやっていませんが、現実には子どもたちを見ながらどうしたら子どもたちの力が引き出せ、元気になれるかということを考えています。それが伝わり、自信につながったと考えプログラムをつくっています。「子供のために」と北九州では少年サポートセンター、児相、警察と学校が多機関連携に頑張っており取り組んでいます。石川先生の研究分野ですが、僕も昔福岡でそういう連携を組みながらその仕事にあたっていました。先生からいただいた本を読み懐かしかったし、知り合いもいたので非常に勉強させていただきました。

実際そんなと塾でどのようなことを行っているかについてですが、教育は重要です。私自身現場にいたもので、高等学校、全日、通信などでいろんな子ども達を教えてきました。かなり能力の高い子もいます。しかし、さっき見たような子もたくさん抱えてきました。その中で、その子たちがどのようにしたらもう一度自信を取り戻せるようになるか。そのためには道德教育も必要であるがやはり、教科教育で自信をつけるということが大事です。これから社会に出るので最低限の知識は頭の中に入れてもらいたい。それと同時に社会が必要とする人材を送り出したいのです。人間教育、職業倫理にしても、いろんな生きる知恵を習得するわけです。

生きる知恵を習得するということはいいことも悪いことも勉強する中で、一番大切だと思います。教育を行うことによって自信を取り戻す、又、それは将来の可能性が見えてくるということです。自分が勉強を始め、それをわかった時の喜びが非常に大きいと思います。僕も、たくさんの経験をしてきました。僕は優等生でもありませんでした。わからなかったらそのまま置き去りされてもいました。

あるときある先生からわからないところをずっと教えてもらい、そうだったのかと思い勉強をやり始め、いろいろな勉強をするようになりました。

それも一つのきっかけだと思うし、やはり自分に自信を取り戻し、自分を大切にすることだと思います。社長の副島の考えもおそらく自分を大事にしろというメッセージだろうと思います。自分が幸せになることによって、自分が輝くことによって、世の中に貢献でき、社会の一員としての自信につながるのかなと思います。それが教育の役割だと思っております。

さきほども出ましたが、受刑者の65%が中学校卒業、あるいは高校中退。僕の経験では高校一年生から二年生の最初のところで退学します。学校に行っていない。途中でいろんなトラブルを起し、高校に入学したものの行っていないのが実態です。中学校は義務教育のため、きちんと卒業させます。出席日数、試験等を受けなくても3年間で卒業します。留年はありません。僕の経験で一年の時は学校に行ったが、2年、3年は家にいた子がたくさんいます。それでもちゃんと卒業証書もらっています。

高校にその子たちが入って高校の授業をきちんと受けるかというとなかなか受けません。これが今の学校教育の現場が抱えている問題だと思います。教育をすることが重要だということは、危機を回避する知恵を習得するということです。勉強をすることによって自分の危機をどれくらい回避できる

か、生きていくためにはやはり危機を回避するのが一番だと思います。これをしたらダメ、これをしたらまずい、こっちのほうがいいというのを判断できるのが勉強の蓄積だと思います。そのようなことを導入として行っています。

具体的にどのようなことを行っているかについては大きく分けて三つあります。実務教育、要するに情報と日本語と、実務数学です。実際に、足し算、引き算から始めています。

次は知識です。自分で考え、自分で行動する生きるための知識は大切です。たくさんの知識を吸収すれば、自分で仕分けができる。そこから次に生きていくための可能性が見えてくることです。私自身が社会科の教員なのでいけば、そのような社会一般のことを教えています。

また、体育の先生に来ていただき健康教育を行っています。人間身体が基本ですので、身体のことや、薬物の教育も行っています。文学に関しては、感受性を大事に、本を読むことによって自分で勉強することにつながる指導をしています。

社会で生きていくための心のトレーニングが必要です。本人の気持ちを聞くのと同時に強く生きていくためのノウハウをカウンセラー（臨床心理士）からいろいろ指導してもらっています。いろんな心の変化もあるし、今の子供たちは感情のコントロールがあまりできないので、そこをどのようにすればいいかを学ばせています。認知行動療法は大切で、それがどのような形で、反映するかなど絵を描いていただき分析しています。社長と、軍師の山川から特別講話として、実務的な話をさせていただいてもしています。

実際どのような取り組みをしているかですが、情報はエクセルとワードの基礎です。次に日本語です。何で日本語かというと、敬語の使い方、言葉の意味を知ったり、最低限の言葉使い、文章がきちんと書けることが大事だからです。会社に入ると日報を書きます。私たちは業務日誌を書いたり、先生方は論文を書くので手慣れたと思いますが、子供たちに最初に文書を書かせると文章になっていないことが多いです。

漢字は書けない、文章が続かない。会社に入ると報告をしなくてはなりません。最低限日報が書けるようにしようということが一つあります。もう一つは新聞を読む。見出しでもいいので新聞が読めるようになろう。このようなことで日本語教育を行っています。日本語教育の中で、言葉の意味で四季が出てきます。この間春の七草という題材が出ました。教員が実際七草を買ってきて、七草の意味を教えました。せっかく買ってきたので調理実習に替えて良いかと尋ねられ、許可したら、その子と一緒に調理実習を始めました。七草粥でなく、七草味噌汁をその子が作りました。包丁の使い方からいろいろ教え、それをみんなで食べました。

山川さんもまた来て、一緒に食べました。誰が作ったか尋ねられ、先テレビに出て博多弁で話していた 21 歳の子が作りました。自分で作って食べているため、七草の意味が頭の中に入っています。次の日に七草を聞いたらちゃんと答えてくれました。

実務数学ですが、日常に必要な計算ができないとダメだと思います。仕事に必要な数式の習得で、簡単に言えば四則演算です。正直二桁の足し算ができません。できないものなのでどのようにしたらいいかわかりません。できないものなので、自己否定をし、最初からできないと決めつける。私やったことがないのでわからない、というところから始まります。それが態度にも表れる。やりなさいといっても私できないという。ある先生は数学の先生ではないが、自分の子供に教えてきた手法を使いました。足し算の問題を小さなノートに作り、そんとく塾までに来るには時間があるので、仕事の合間、帰ってからなど時間があるときやるようにこれを持たせています。一週間後に来たときに先生に渡すと先生がその日のうちに採点し、コメントまでつけてくれる。「よくできました。」は幼稚園、小学校で行っているやり方でした。その子は33歳です。このやり方がすごくうれしかったようでした。自分が今までしたことに対して、このようなことをしてくれたのは初めてといっていました。私はそこらだと思えます。先の七草ではないが、ちょっとしたきっかけでやってみようというのを出せる方法を試行錯誤しながら行っています。

キャリアの話はコミュニケーショントレーニングです。話し方、会話、グループで自己紹介をしたり、みんなの前で話したりすることです。喧嘩をするのは好きだが、みんなの前で自分のことを話すのは下手です。彼らは喧嘩が好きで得意です。すぐかっとなり喧嘩をする。感情のコントロールが難しい。そこが最大の課題です。みんなの前で交互に発表をします。

自分の番がくると汗をかきながら緊張しています。段々なれるとみんなの前で話せるようになりました。会社では朝礼の際、軍師の山川が全員に一言ずつ話させるようにしています。このような積み重ねを経て、この前、視察に来られた際に会社の説明をさせました。専門分野のことを説明させたら、ちゃんと説明ができるようになりました。毎日繰り返して行えば、自信につながり達成感を感じ、人の前で言えるようになります。イチロー選手の振り子打法ではないが、さきほどお話ししたようなことです。

一年ちょっとで4人が入塾しました。1名は女の子です。一カ月でやめました。先ほど説明がありましたが、自分は頑張るといっていたが、夏は工場が40度以上になる。女の子が汗を流しながら男ばかりの会社の中でやるのは無理だと思い聞いたら、やはり無理ですと言ひ辞めました。これも一つの選択だと思います。このようなことを行っているから誰でもいいということではなく、やはり合う、合わないはあると思います。頑張れる子は一生懸命やりますし、女の子は体力的にも無理だと思っていました。彼女に叩いているところに仕事を探していきました。もう一人は卒業間近だったが、家庭の事情で関東のほうに帰りました。後の二人は無事に卒業しました。

検定は日本語検定と情報検定を行っています。目に見える達成感、生まれて初めて賞状をもらった時のうれしさ。これが自信につながります。今まで受験した人は日本語検定3級を取得しました。続いて2級を受験しました。結果がまだ出ていないが、おそらく通っていると思います。一人の子は3

級を取るのに3か月で合格。日本人のための日本語検定のため、結構難しいです。私が受けても4級合格するか否かのところである。2級は大体大学生のレベルだということです。

検定はすべて自信につなげるためです。目に見える達成感です。話し込みは毎時行っています。来たときはいろんな話をします。相手の話を聞くことができるようになりました。今までは説教されることは多かったが、自分の話を聞いてもらえることは少なかったようです。聞いてもらえるとな人も一生懸命話します。段々自分で考える姿勢が出てきます。徐々に自信を取り戻していきます。そんとく塾を卒業した子は、義務教育にしても、高校、通信に入っても一年続かなかった。そうこうしているうちに少年院に行き、仕事も3か月するのが精いっぱいだった。初めてヒューマンハーバーで一年頑張ったのです。

彼が正式にそんとく塾を卒業した第一号です。卒業する2か月前に自分は仕事が楽しくなったといっていました。私は成功だと思いました。勉強ができるようになったとかは大きく期待していないが、仕事が楽しいといっていることを大変うれしく思います。一生懸命いわれたおとりにやったら、先輩からよく頑張ったと褒められるし、楽しい。最終的にどうしたいかを聞き、ほかのところで仕事をするようにいったらヒューマンハーバーで採用できないかと聞かれました。そのようなことなら社長に正式に伝えるように言いました。卒業式の日、別室で社長に呼ばれたときは、卒業式のニコッとした顔とは違う真っ青な顔をしていました。彼は今日で終わりだといわれると思ったみたいだったけど、社長がもう一度ヒューマンハーバーで働きたいかを確認されたところ、「働きたい」とはっきり言いました。期限付きで再雇用しようということになりました。期限はないか頑張るねと聞いたら頑張ると言いました。帰るときはニコッとしていて、今は部署の主任をしています。会社を見に来る方の説明もやっています。それが総合的にみたその子の自信の取り戻し方だと思います。

ハーバーアカデミー、これは企業内学校です。授業をしているのがハーバーアカデミーです。ハーバー寺子屋は、今度自立準備ホームができたので、ヒューマンハーバー方式の自立準備ホームといっています。自立準備ホームの中で教育を取り入れたのはおそらく全国で初めてだと思います。アカデミーでは一年間の支援の中で、働くことの大切さ、賃金を得ることの大切さを学ばせます。実際に働くとお金が稼げること、これが社長の副島が言っていた納税者です。国民の三大義務は勤労、納税、教育であるがこの教育は受けるものではなく受けさせるものです。この中の大事な二つは学ばせたいと思います。学習することの大切さです。勉強することにより、いろんな意味で方向性が開けると思っています。一生が勉強であるが、勉強をする習慣をつけてもらう。技術を身に付けるためには、勉強をしなければいけない。勉強することにより将来が開けることを教えたいと思います。アカデミーは、次の仕事の準備をするわけです。

今月26日で二人目の子が卒業します。今お進路指導をしながら、就活の指導を行い、就職先が決まった時点で次へバトンタッチする予定です。



ハーバー寺子屋、これは自立準備ホームです。正式に来年の1月から入寮してきます。6か月間教育支援と就労支援を行ないます。週3日間学習を行い、3日間仕事をする。ヒューマンハーバーでは協力雇用主がいるため、そこで働くことになります。次の旅立ちのためのお金を貯めることです。ここでは、自立生活の能力を習得させます。また、時間の使い方を勉強させます。学習と仕事は自分の頭の中で使い分けをしないと大変です。今までは遊びだけ、又は仕事だけだったのが。

金銭の管理では、お金あれば全部使います。このような部分を最初にきちんとやっていく必要があります。アカデミーもそのような指導をしています。これを応用しながら実践していく予定です。最初に小さい目標を決めてもらい、それを実践していこうと思います。まずは基本的生活習慣のマスターです。健康管理、時間管理が大事であるが、時間管理に関しては恐らく彼らは難しいと思っています。このようなことを具体的にやっていこうと思っています。

人間関係の基本「あいさつ、感謝、謝罪」の三つができれば七割は大丈夫だと思います。素直に挨拶ができればいいと思います。人に何かをしてもらったとき感謝の気持ちが持てる。だれでも失敗はするもの、その際はまず謝ること。この気持ちを教えようと思います。

先のアカデミーの子もテレビに出ていたが、朝は必ずホームルームを行います。いわゆる朝礼です。起立、礼を三十過ぎた人にやらせています。これはやはり最初の挨拶をきちんとすること。最初はあいさつをしませんでした。教室にも知らない顔で入ってくるが、教師のほうから「おはようございます。」と大きな声で言ったら段々と「おはようございます。」といえるようになりました。朝礼でいろんな話をし、最後に終礼をするがこれは学校と同じです。授業が終わると「ありがとうございました。」の礼をします。毎時行わせるとうまい具合でつながっていきます。これが仕事につながると思います。将来設計に関しては、自分が実際将来どのようなになっていきたいかを教えます。カウンセリングを行うことによって心の安定が得られます。このようなことについて取り組んでいこうと思います。

それが自信につながり、自信をもって社会復帰できればと思っています。自分が幸せでないと他人を幸せにすることはできません。まず、自分が幸せになろうということを半年かかって短期決戦でやっていきます。社会復帰を果たし、社会のリーダーになってもらいたいのです。

月火水が授業である。6時に起き、6時30から朝食、なぜ授業を12時から4時半にしているかというと、三日間やるので、三時間が限度だと思うからです。アカデミーは一日行い、朝9時から4時半まで行いました。だけど、ここは3日間のため、分割して行う予定です。

自立準備ホームにはテレビがつきます。六畳のワンルームなので6か月間生活するにはちょうどいいと思います。施設もそろえています。学習室などに関しては日本財団のほうで教育支援の一環でいろんな改装の手伝いをしてもらいました。6か月間支援を行い、そこからもっと頑張りたいという子には、日本財団のほうから奨学金をもらいながら、資格取得の勉強することに繋がると思います。

頭の中の構想ではありますが、保護観察中の少年、虞犯少年、触法少年等実際、少年院に入っ

い子たちを、ヒューマンハーバーの理念である再犯防止を実現するとともに支援（非行防止の取り組み）していきたいと思っています。全寮制で週5日間の授業で6か月間預かる教科教育、道徳教育、人間教育、社会教育、居場所つくりをしながら立ち直りの支援ができないかを考えています。これはヒューマンハーバーだけが行うものではなく、官民一体でいろんな人の知恵が必要です。自治体、このような子供たちに係る警察、保護司会、保護観察所等多機関連携ができてはじめてできるものです。このようなものを作ろうとしても、施設の問題、地域の協力がどのように得られるか、保護観察所、警察少年課、サポートセンターと情報交換をしながら協力してもらいます。また、それぞれのOBの方に会社の非常勤指導員として働いてもらう等の方法があります。

実際私が運営していた通信制の高校には警察のOBの方に来ていただき、子供たちを立ち直らせるための協力関係を作っていました。情報の交換などを行うことにより、連携ができます。また、保護者もやはり子供のためにできることを行ってもらうことです。そのためにはやはり全寮制にしないとと思います。一緒に膝をつき合わせ、飯を食べながら人生設計をしたり、地域企業との連携をとり、子供たちが少年院に行く前に立ち直らせることができないかを考えています。再犯防止と非行防止を一緒にできないかを考えています。これはヒューマンハーバーの大きな課題です。リバイバル・スクールという意味でリバイブスクールと名前をつけました。もう一度この子たちが頑張れるようにしたい。これは都市型です。（図表を見ながら）授業を午前中に行い、午後はカウンセリングや特設授業を行う。夢タイムでは自分が好きなものを勉強する。美容、介護、武道等「好きこそものの上手なれ」です。好きなことは一生懸命やります。英会話も勉強してもらいたい。日本に限定する必要はなく、世界で活躍してもらいたい。また、国際化の社会なのでまたいろいろなひとが入ってきます。英会話をきちんと習うチャンスがあったらいいと思います。あくまでも構想です。これは自然型です。（図表を見ながら）

地域限界集落までとは言わないが、過疎化が進んでいる地域に子どもたちの寮を作り、地域の方々と連携が取れないかと考えています。

地域の方とふれあい、農業や林業等を体験し、奉仕活動などで若手が村に来て、「じいちゃん俺が加勢するよ」ということをおこなうと年寄りとの交流につながると思います。これも非行防止の一つの手段です。地方創生までとはいわないが、地域の特性を生かしながら、子どもたちが地域の力として皆さんと交流ができることで、もうこのようなバカらしい非行なんかやめようと思い頑張れる気がします。

早く実現したいと思います。実現するにはいろんな課題があります。そのためには地域との連携が必要だが、先ほども言ったように縦割り行政、これはどこにしても同じであります。横断型の連携が官民共同学習会でどのようになるかは不明だが、早く実現させたい。それぞれのいいところを取り、子供たちの再犯をなくそう、非行を防ごうという同じ目標に、法も、教育も関わり、みんなの目標は

一緒です。

北九州市では、補導員と警察、学校など多くの機関が「この子のために頑張ろう。」ということで行ってきました。この大きなキーワードで動いた。警察の少年課も学校も兎相も対象者は同じなので、起こる前にどのようにして防ぐか、それは思いは同じだと思います。何年かかるかは不明だが、ヒューマンハーバーが抱える再犯防止の一つの案です。うまくいくとかならないかではなく、始めたばかりで、先生方のいろんな学問的なアドバイス等をいただくことで現実味になっています。

私どもは、実践では一生懸命行っています。理論面でいろんなことを教えていただくことで、それが再犯防止の一つの鍵になると思います。10年後には再犯が20%になることも夢ではありません。日本財団が再犯防止のためにみんなで頑張ろうとしてくれたことがうれしかったです。ヒューマンハーバーがあり、いろんなところで連携いろんな学習会を開かれています。また理論的にバックアップしてくれると大きな形になると思います。

航海日誌という名前で、授業を受けたら日誌を書かせています。今日は何の授業を受けたかを書かせています。今日の感想を書かせそれに先生のアドバイスを載せこれを卒業する際に渡します。これを読み自分を振り返る。一定の年齢になり、振り返ることも一つの勉強だと思います。私たちが行っていることは小学校、中学校、高校と同じように、どのように指導したら、その子にとって一番いいかを考えながら行っています。

以上です。ありがとうございました。

## 〈質疑応答〉

石川：確認ですが、そんとく塾は今、ヒューマンハーバーで働く子どもは週5日働き、その中の1日をヒューマンアカデミーで勉強をするという形ですか。

二宮：はいそうです。

石川：来年の1月から始めるのは、法務省からの承諾を得ての自立援助ホームであるが、その子どもは週三日勉強を行い、週三日は別のところで働くということでしょうか。

二宮：別の建築会社で受け入れてくれるとのことなのでそこで働きます。

石川：そこにいられるのは少年だけなのか？それとも成人もなのか？

二宮：自立援助ホームは基本的には、少年院又は少年刑務所を出所した人をお願いしています。作業がきついので体力的にもすぐれ、我慢できるような子を中心に雇ってもらいます。

石川：定員は何人か？

二宮：福岡は3人です。

石川：こちらのほうは法務省から3人分のお金を使うため、ヒューマンハーバーの事業形態からのお金は使わないわけだが、職員費用は使う。

山川：アカデミーのほうは社員寮，自立援助ホームは法務省の登録認定を受けています。3日間仕事，3日間勉強である。準備費・宿泊費が一日 3500 円，食事代が3食で1213 円です。生活，教育支援を行い，家賃が6畳一部屋で 40,000 円です。住居・宿泊費で賄えない。なぜヒューマンハーバーで働けないかという点，自立準備ホームを始めた会社は，自社の社員寮として準備ホームを使って自社で働かせてはいけないという矛盾が存在するからです。そのため（規定により）別の事業所で働くことになります。

二宮：現実的にはヒューマンハーバーから支弁している。

石川：子どもの方からいうと自立準備ホームだが，ヒューマンハーバーから見れば自立準備のためのところではない。

二宮：自立準備ホームでの教育は，具体的にはハーバーアカデミーと自立準備ホーム合同で行います。先ほど社長が言ったようなハーバー大学校，つまり第三の教育機関を作りたい。第一は学校教育，第二は塾などの教育産業です。かつては塾は学校でないといわれていたが，現在は塾の先生からいわゆる学校の先生たちは授業ノウハウを学んでいる。第三の教育機関は非行少年，受刑者等誰も手を付けなかったところに，再犯を起させない，非行などをさせないための「ハーバー大学校」を第三の学校（教育機関）として作ります。そのモデルを試行錯誤しながら，つくっています。学校の授業では，わかっていくまいか授業を進めているが，うちは子どもは十人十色のため先生たちは大変です。しかし，この子たちの役に立つための教育プログラムを作っています。それを，グルーピングしていく。それが次の段階です。第三の教育機関としてハーバー大学校の構想があります。非行少年に対する教育施設，再犯防止のための教育施設などを中心とした第三の教育機関の実現へと思っています。

石川：その夢の実現はいつごろを予定しているのか？

二宮：一つは社長には頑張ってもらいますが，私もそんなに若くはないが，後 10 年ではできると思います。社会は動いています。この一，二年再犯防止の取り組みなど社会は動いています。そのようなことを全部結集すると以外に早いと思います。

石川：北九州はそのような土台があるため，展開が比較的しやすい。

二宮：可能性はあります。福岡にも作りたい。

石川：北九州に作って福岡にも作るということですね。

二宮：ネットワークがあります。

石川：その時のお金はヒューマンハーバーが出すのか？

山川：ヒューマンハーバーは株式会社なので，事業としてそのような社会貢献のものには充てていきます。そのためにはビジネスをうまくやらないといけない。教育には金がかかります。その収益をある蔵の部署で補う。ビジネスなので利益を出さないと，「道徳なき経済は寝言である」というよう

に事業で収益を上げてから、教育してもらいます。2020年には達成する目標を立てています。オリンピックまでのあと7年で完結させるのを目標に、現在法人設立から2年経ってないのですが、後5年で目標を達成します。

細野：民間の活力だけで再犯防止のモデルを展開していきたいと考えている、すなわち日本財団と民間活力、学術的な力で展開していくというようですが、一般的に再犯防止というと、再犯防止は法務省が、就労支援は厚生労働省が、地域に戻れば地域の方が面倒をみるということになります。また、広域自治体などは再犯防止をうたっているが明確な役割が見えない。本来ならば行政がそういう役割を担う部分があると思うのだが、今後そうした自治体と連携をしていきたいという話の中で、具体的にどのように実現していきたいと考えているのでしょうか。

二宮：今、福岡県では「青少年非行防止立ち直り支援研究会」というのがあります。そこでは各自治体、福岡県を中心に、福岡市や久留米市が入っているが、そこでどうしたら立ち直り支援ができるかということを考えており、その中にヒューマンハーバーも参加しています。いろいろな提案は出るのだが、横のつながりが自治体として難しいのだと思います。非行防止は自治体がきちんとバックアップしてくれないとできません。特に北九州が一番進んでいます。市がバックアップしているし、福岡県警が全部の警察署に立ち直り支援の指令を出している。その中でヒューマンハーバーも入って欲しいということです。その話し合いの中でヒントをもらいながら、非行防止の全寮制の地域を作ろうということを考えました。そういうことで市や県に働きかけをしていこうと思っています。その中で国の機関などにも協力やネットワークを作っていきたい。今年もまだ会議があると思うが、その中で訴えていこうと思っています。自治体が動いたら大きいと思います。ヒューマンハーバーが職視プロジェクトや官民共同の勉強会の中で動いているので、近いうちに動きがあるかと思います。そして学術的に大学の先生がバックアップしてくれるのは大変勇気をもらいます。学問的に認知してもらえるという思い、僕は思いとしてスタートしたので、学問的にこういう試みが将来の非行防止や再犯防止にどのように役立つのかという一考察としても、学問的にPRしていただけたらいいのではないかと思います。

## 【当日報告資料】

|                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>株式会社ヒューマンハーバー(HH)</p> <p><b>そんとく塾</b></p> <p>教育支援部門</p>  <p>日本国内各地<br/>あるべき場所から<br/>必要な人を迎える</p> <p>HH<br/>HUMAN HARBOR</p> <p>～誰もが安心して学べる環境を～</p> <p>2014年10月1日版</p> | <p><b>基本領域</b></p> <p>○実務教育<br/>技術の習得 実務(社会)に必要なもの<br/>情報 日本語 実務数学</p> <p>○教養(知識)<br/>自分で考え、自分で行動し、社会を生き抜くために必要な知識を身に付ける。(生きる知恵の基礎知識習得)知識の引き出しづくり。<br/>社会一般 健康教育 文学 キャリアの羅針盤</p> <p>○心の教養<br/>社会を強く生き抜くための心のトレーニング法<br/>カウンセリング 特別講話</p>  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>そんとく塾の教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報<br/>(Excel・Wordの基礎)</li> <li>・日本語<br/>(敬語の使い方、言葉の意味等)</li> <li>・実務数学<br/>(日常生活に必要な計算)</li> <li>・キャリアの羅針盤<br/>(コミュニケーションのトレーニング)</li> <li>・社会一般<br/>(社会において必要な基礎知識)</li> <li>・健康教育<br/>(健康・精神の予防教育)</li> <li>・文学<br/>(文字に慣れ親しむ・豊かな心づくり)</li> <li>・カウンセリング<br/>(心のトレーニング)</li> <li>・特別講話<br/>(有識者・社会人の講話)</li> <li>・特別教育<br/>(その他必要と思われる教科)</li> </ul>  | <p><b>今までの教育の効果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・検定の合格<br/>日本語検定 3級合格<br/>情報処理検定 3級合格<br/>(自信につながる)</li> <li>・生徒の内面的変化<br/>・カウンセリング 話し込みの導入<br/>・自分で考える姿勢への変化<br/>・徐々に自信を取りもどす など</li> </ul>  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>ハーバーアカデミーの取り組み概要</b></p> <p>【アカデミー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間の支援体制</li> <li>・働くことの大切さを体感<br/>⇒賃金を得ることの大切さ</li> <li>・学習することの大切さを体感<br/>⇒知識・考え方・自分で考え行動する</li> <li>・次の仕事への準備</li> </ul>   | <p><b>ハーバー寺子屋の取り組み概要</b></p> <p>【寺子屋(自立準備ホーム)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6か月間の教育支援と就労支援<br/>(3日の学習と3日の就労)</li> <li>・自立生活能力の習得</li> <li>・基礎学力に力を入れる</li> <li>・時間の使い方を習得させる(学習と仕事)</li> <li>・金銭の管理</li> <li>・人間関係</li> <li>・就労への準備(進路指導)</li> </ul>  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



[illegible][illegible]

吉関・私もヒューマンハーバーに伺ったのですが、3月まで検事をやっていた関係もあって、仕

副島：先ほど、仮に社会問題を解決するためにヒューマンハーバーの成果はどうなのか、という質問もありました。よくマスコミからも質問を受けるのですが、その時に私が答えることがあります。一つは、例えばイチロー選手を例にあげて、3割打てれば優秀だという。では、私たちの成果が1割しかなかったとしても、私たちはこの再犯防止の事業は諦められません。たとえ1割であっても続けないといけません。それが私たちの使命だと思っています。結果は出ればよいに越したことはありません。今の行政の方の御尽力は、結果が出てこない途中で止まってしまう。しかし、

副島：先ほど、仮に社会問題を解決するためにヒューマンハーバーの成果はどうなのか、という質問もありました。よくマスコミからも質問を受けるのですが、その時に私が答えることがあります。一つは、例えばイチロー選手を例にあげて、3割打てれば優秀だという。では、私たちの成果が1割しかなかったとしても、私たちはこの再犯防止の事業は諦められません。たとえ1割であっても続けないといけません。それが私たちの使命だと思っています。結果は出ればよいに越したことはありません。今の行政の方の御尽力は、結果が出てこない途中で止まってしまう。しかし、



人間がいる限り、この国をよくしたいという思いがある限り、この事業はやめられません。それと、今は就労支援事業者機構があります。これは当初出来た時よりも数段成長しています。例えば、身元保証制度がある。それから、雇った人から被害を受けたら 200 万円は保障するという制度です。私も調理師になりたい子に仕事を紹介したことがあります。しかしその雇い主から、少し怖いという指摘を受けました。それを何とかしてほしいという相談も受けました。事業者機構は、そうした雇い主を保護して欲しいという要望にもこたえるようになりました。また、アパートの保証人にはならないが、資金を出すという制度もできています。このように、社会全体が再犯を無くそうということで取組みを始めています。

仕事を持てばなぜ再犯が減るかという、みんな人間はまともになりたいという思いがあります。しかし、自分を理解してくれる人がいません。周りから愛情を受けていません。悪いことをすれば目立つ。そうなると自分がヒーローになった気持ちです。特に子どもたちは頭の中が工事中です。そしてそういう子ほどすぐにお互いが仲間になる。そういう傷のなめ合いをすることを本能的に知っています。だから、私が行政にお願いするのは、我々が民間でいぼせあがってやっていることを PR することではないのです。私は笹川会長を尊敬するのは、民の力でやれることは民でやろうとするからです。行政に依存するよりは、民の力でやれることをやりながら行政を動かすこと。だから我々は現在、福岡県に公営住宅など、空いている施設を貸してほしいと言っています。それだけで嫌悪されるということも現実にあります。まだまだ我々の活動が未熟なためにそういうこともあるが、いずれ動かせるようになれば変わってくると思っています。

山川：働くこと忙しくなって時間が無くなる。そしてお金を稼げる。安心感もできる。そういう意味で、仕事をするのが再犯をしないということにつながります。それと、ヒューマンハーバーの場合は来た時に所持金がほとんどないが、来ると最初に 3 万円くらいお金を渡します。そうすると安心でき、精神的にも豊かになります。仕事も真面目にするようになります。お金もある。仕事もある。それによって安心感が出るから再犯をしないということだと思います。

吉開：経済的な問題というのはやはりあるのだと思いますが、株式会社形態であることで経済的にプラスになるという面はあるのか。

山川：株式会社であるということは、企業なので行政を頼っていません。NPO は何万もあるが、実際に続くのは 2% くらいです。なぜ何万社もあるのにできないかと言うと、寄付金を募っているからです。寄付を募るために理事は毎年動いている。しかしヒューマンハーバーは経費を固定経費とみて、収益を上げないといけないうことで、つまり稼がないといけないうことで始めています。補助をもらうことを考えていけません。企業が社員教育をするのと同じで、それが社会問題の解決につながります。株式会社でやる意味というのは、あくまでユネス・ソーシャル・ビジネスとしてやるということです。NPO/NGO、ボランティアを頼らない。それが強みだと思う。ヒュー

マンハーバーは最初から寄付を頼らず、収益を挙げていくことを考えています。

石川：継続的に収益が入るのは大きい。

山川：対象者は入ってきてすぐに20万円もらえます。うちの幹部の賃金は、総務省の出した平成23（2011）年度の幹部の平均年収額より高い。福利厚生もきちんとすれば継続性もある。この前のケースの者は今度昇給させる予定です。

二宮：昇給させるのは、頑張っているからです。一生懸命やって、幸せになりたいというのは誰でも同じ。それが結果で、仕事が楽しいという一言と、山川さんが現場で見ている、昇給しようという事で、報酬をきちんと評価してやらないといけないということであげます。それが次のステップになります。それが大事だと思います。自分が幸せになりたい。一生懸命働くことが大事です。誰も好きで再犯するわけではなく、切羽詰まるから再犯をするわけです。しかし一生懸命働いてきちんとやったことで報酬がもらえる。本人は本質的には反省しているはずで、それならばまじめにやった方が得です。働くことでそれを体感するのではないかと思います。

副島：11月19日に第二期目の株主総会がありました。その時九州大の岡田教授に来てもらい、バングラデシュの話をしてもらいました。バングラデシュは人口密度が非常に高い。車が渋滞するとお金をせびる子どもが集まって来ます。しかしお金をあげてはいけません。あげると彼等は働かなくなって、せびることしかなくなります。本当にはたらくなくて生活保護を受けている人は多い。しかし、上手に生活保護をうまくとっている人も多いと思います。しかしここがやはり問題であります。私は自民党のある議員さんに申し上げたが、消費税を上げて生活保護がどんどん増えていったら日本では暴動がおきます。なんでも安易に生活保護につなげるよりは、働ける人は働かせないといけません。そういう厳しさも必要ではないかと個人的には思っています。

石川：確認だが、権力機構が行う犯罪防止活動、民間の防止活動は自ずから領域を分けないといけない。例えば、「ある蔵」の就労で対象者になっている人は矯正施設には入っていたが、仮釈放の人ではないのか。

山川：仮釈放の人である。二宮先生が保護司になって、遵守事項を守らせています。

石川：保護司ということで遵守事項を守らせる指導監督ができるということですね。

副島：私の自宅は福岡市の中央区で、ヒューマンハーバーの工場は宇美町です。ヒューマンハーバーに来る人の面倒を私ができるかと言うと、これは地元の保護司さんでないと面倒が見られないことになっています。

石川：でもその人は常に現場にいるわけではないですよね。就労している間は指示をしないとけないと思いますが、その指示の根拠はどこにあるのでしょうか。

山川：遵守事項は決まっているので、入って来た時は守らせることははっきりしています。また、私が寮の1階に住んでいて、何かあれば常に対応をします。朝礼でも指導をしている。私は福岡に住

んでいたが、このために引越しました。私の方で教えるようにしています。

山田憲児招聘研究員：なかなか刑務所に入った人が就労できないという具体的な弊害として、わが国は資格制限があらゆるところに存在する。例えば古物商とか警備員にはなれず、排除されます。山川さんも株式会社の役員にはなれない。就労の推進のためには、この「資格制限」をどういう方向に持っていきたいのか教えてほしい。

山川：私も資格制限に引っかかっています。出てきた人が5年間は産廃業ができません。あと1年半はなれません。また、出所者は5年間は取締役になれない、産廃業もできない、警備会社にも勤められません。だからこういう制度は考え直すべきかとも思うのだが、しかし、これがあることで自分がやったことを振り返ることができます。それがあるということで、自分がやったことを振り返ることになる。私の意見は、残した方がいいと思います。仕事がない人からしたら、資格制限はない方がいいが、しかし過去にそれだけの犯罪をしたということを認識できますので、私は残した方がいいと思います。

副島：正直、保護司でありながら、そういう制限があることは当初分かりませんでした。制限の無い職業もいっぱいあります。制限があるということは、考え方ですが、法務省の人は、一回犯罪をした人はまたやるという立場に立ってものを考えているのだと思います。だから、そんな悪いことをした人にお金を任せていいのかとよく言われます。要職に就けないというのはまたやる可能性があるということだと思います。そこで私は、刑務所に隔離された人が出てきて半年間でもそこで無償で勉強させる場があれば、更生させる機会になるのではないかと思います。また、いろいろな会社のトップと話したら、教育して有能な人がいたら自分の会社に入れてもいいという人が結構いました。特に電気業界では要望が多い。それから足場関係の会社。鉄筋関係の会社。みんな建築関係だが、優秀な人がいる。それを見極めてやって反省は一人で出来るが更生は一人で出来ない。それを見極める期間をつくりたい。それがハーバー大学校などの発想です。

石川：保護司法では資格制限はどうなっていましたっけ。少年院を出た方で保護司になった方がいますよね。

山田：保護司法上は禁錮以上の刑となつていると思いますが、実際の運用はもっと厳しい。道路交通法上の罰金などがあっても保護司にはしませんし、保護司在任中に事故など起こすと保護司を解任します。国家公務員はクビにはしないのですが…私は副島社長のお気持ちがよくわかります。

吉開：本日は日本財団から福田様にお越しいただいています。今このようなソーシャル・ビジネスの中で、社会的インパクト投資というものがあります。G8の方で積極化しようということでプロジェクトをされているということですが、今後こういう社会的企業の将来性も含めていろいろ教えていただきたいと思います。

福田英夫氏（公益財団法人日本財団コミュニケーション部部長）：日本財団でも今、社会的インパクト

投資を日本に導入できるかの研究をしています。その中の一つとして再犯防止の取組み、これは既にイギリスでは成功しているということで、日本ではどうかということで、官民共同の勉強会を開催しています。自治体の中では奈良県等、会社ではヒューマンハーバーさん、その他 NPO など入っています。その中で今ちょうど新しい支援策を作り始めたが、検証した評価を組み込むことで社会的投資の可能性も広がるのではないかとということで、今はまだ勉強段階です。実現するか分かりませんが、基本的に私たちの財団はポートレースのお金を使っているが、それだけでは目の前の問題は解決できても、社会のゆがみを直さないとい根本的解決にはなりません。民は民、官は官というタテの仕組みだと変えられないのではないかとということで、官民共同の勉強会をしており、そこに企業や NPO が加わって、これまでと違い、ビジネス的手法や行政の協力も必要ということで取組みをしています。

石川：せっかくの機会なので、職親プロジェクトの紹介もしていただけませんか。

福田：職親プロジェクトは、働くことで更生の道が一步近づくということで、私たちも調査をする中で対象者の人とお話しをして、働くことで生きがいを見つけ、前を向けるようになったということもあったということでしたので、初めは農業の分野でそのような取組みを始めました。しかし農業では食べていけないということで、企業の力を借りようということになり、企業に働きかけをして、就労支援に熱意のある企業に集まってもらいプロジェクトを立ち上げました。協力雇用主は経済的負担も大きいので、これまでの協力雇用主と異なり、経済的負担については日本財団が支援をすることにしました。また、1 社ずつの協力体制をネットワークで支援するようにしたという点も目新しい者として始めました。また官民共同と言う点も大きく違うと感じています。今現在全国 20 社あります。関西が 11 社、関東が 9 社です。これもプロジェクトを始めてから加わりたいという話は多くもらっているのですが、今は広げないで組織固めを先に行い、まずは足場を固めてから広げようと思っています。

また、この職親プロジェクトの支援金を財団から一人当たり 8 万円×6 カ月を出すということでやっていますが、来年度から法務省の方で同じようなスキームで進めることを考えています。これでまた一步前進していくと思います。

石川：例えば「千房」という企業などもありますが、そこに少年院出院者が入るとして給料は払うのか。

福田：給料は払います。この支援金は本人の自立のために使うということです。人件費には使っていない、また現金で渡さないようにしてくださいということにしています。また、社員寮があるような会社ならいいのですが、寮が無い場合は民間の住宅を借り上げないといけないので、こういうものに使うということもあります。また出所者の所持金も少ないので、自立のために使うということで、全部で 480,000 円を支援しようということにしています。

石川：具体的には職親プロジェクトの中でどのくらい雇ったのか。

福田：現在累計で 140~150 名が応募している。少年院に入っているうちに面接をして、内定が出たのが 40 名弱。そのうち出院して働き始めたのが 16 名。残りの方はまだ中に入っている方です。

坂本悠紀子招聘研究員：私は保護司が長いのですが、出所してきた人は一旦更生保護施設に入っても、数万円しかないんで、在所中に敷金と礼金をためて出ていくというのが基本的なパターン。しかし、今の世の中敷金礼金と家賃 2 カ月分をためてやろうとしても、若い人ならばともかく、中年くらいの人にはそれが厳しい。なので、区や市などから借り上げてくれるようなアパートがあればと思います。

例えば区の話ですが、生活に困ることがあれば生活保護になる。本人の気持ちとしては生活保護を採らないでどこかが家賃を変わってくれるところがあればいいということだった。そこで、もう少し長くお金を貯められるシステムができればと思っています。更生保護施設も 6 カ月くらいが一般的なもので、出てから 2 カ月で生活保護をもらうということになってしまうと、一度生活保護をもらうと何となく安心してしまって、生活保護が安住の地になってしまう。保護司としては自分で自活できる人を増やしていきたい。そして次第に生活が充実していく、生活の喜びを持たせたいと思っています。高齢者はともかく、20 代や 30 代は生活保護を採るのにどこか悪いところを探して病院に通っている人がいます。そういう人に対して、何とか援助がもらえる仕組みを見つけてくれないかと思っています。

福田：勉強会の中では住宅の問題も出てきています。民間でも空いている家が出てきたり、公営住宅が増えてきているということで、国交省の方などにも来てもらってそういう話をするのですが、制度上は難しいと言われてしまう。しかし、制度が合っても変えてしまえば何とかなるのではと思っていて、例えば公営住宅は経済的に厳しい方が入っているというが、その中でも適用除外として障害があったり、引きこもりのような人も優先的には入れるということで、そこに出所者を入れられないのかというような提案もさせていただきました。ただ、こういうことは粘り強く説明を続けていかなければいけないかとも思っているし、少しずつ動きがあるのではないかとと思っています。我々が出来ることは限られているが、何らかのきっかけが有ればと思います。

石川：ヒューマンハーバーの理想が一番の正解のように思います。そういう形で輪が広がっていくことがいいと思う。どうしても寄付で財源が出てくるので、そういった意味でも重要だと思いますし、啓発していければと思います。

吉開：よろしいでしょうか。それでは以上で終了とします。ありがとうございました。